

SPRING 8

大手前高校自治会

ぼくらが、歴史を変えずに、いったい誰が歴史を変えるだろうか。ぼくらが世界を支ええずに、いったい誰が世界を支うるだろうか。ぼくらが、未来を創造せずに、いったい誰が未来を創造するだろうか。

自己の内の考え（観念）を、広く皆の中へ提出しなければ、どんなに素晴らしい考えも、それ以上に成長することはない。このスプリングの中には、今は芽しか出ていなくても、うまく育てれば大樹となるものが、あるはずだ。

スプリングをバネとして 飛躍せよ。
未来の主演は、ぼくたちだ。





スプリングオオ八号目次

特集

自治会意識を考え直す

1. アンケート へ自治会への関心度 4
2. 座談会 へ自治会の発展のために 10
3. 自治会を考える

自治会会長を務めて

前期会長

好共 覚

14

自治会再建

後期会長

清水 正 憲

15

自治会再建

後期副会長

浦西 友 謙

16

大手前の先輩たち

昭和七年卒業	石橋 春子	19
昭和一九年卒業	井上 節子	20
昭和二五年卒業	松村 節子	21
昭和二六年卒業	上野 春夫	22

クラス紹介

行事紹介

クラブ紹介

- 文化系クラブ
- 運動系クラブ
- クラブ雑感
- クラブ一覽表

先生紹介

- 端 緒
- 明治百年に際して
- 明治維新の現代的意義
- 明治百年を考える
- 詩について

詩

- 五月の朝の詩
- 繁華街のモナリザ
- 夢なき世界にて
- 発 狂

編集後記

- 表紙
- カット
- 金 壘
- 昌 蔵
- 幸 洋

75 74 73 71 70 68 66 64 62 55 54 52 44 36

34 24



自治会意識を 考え直す

アンケート

このアンケートは現在の停滞気味な自治会の真相を少しでも明らかにしようとする。去年の暮れから本年一月にかけて全校生徒を対象に行なわれたものです。しかし回収率は四十%強と少しさびしいですが、統計的には比較的信頼のおけるものと信じております。このアンケートを見て大いに考えさせられる所もあると思います。これが諸君の現状把握に役立つことを祈っております。

ともかく結果をどうぞ

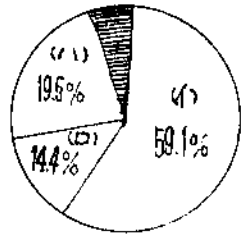
(なお円グラフにおける斜線部は無解答又その他)

1. 現自治会役員の名前を知っているか？

- (1) 知っている。
- (2) 半分ほど知っている。
- (3) 知らない。

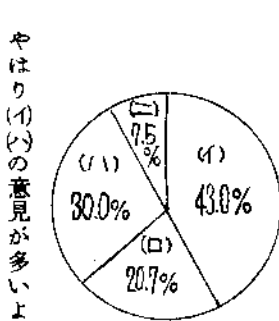


(2) クラブ活動を行なう場。
(3) 学校と生徒との交渉機関



一年の三割が(1)、二年の二割が(2)と答えたのは意外であった。しかし全体の六割が(1)と答えたのは「余は満足じゃ。」といったくなるねえ。ウシシ

役員は二年生が主体になっているので二年生が知っているのは当然。しかし我々を役員として知ってほしかった。(まことに遺憾に存じます。)



やはり(1)(2)の意見が多いように思えるが他に「自治会参加の最大単位」というのがあった。(1)の最小単位というのと全く反対に見えるが、実は同じことをいいたいのだろう。

2. 自治会の意義を何と考えるか？

- (1) 高校生活における自主的活動の場。

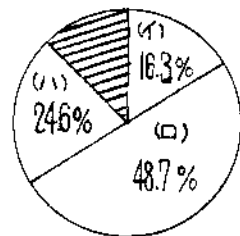
- (2) 自治会におけるホームルームを何と考えるか。
- (3) 自治会参加の最小単位
- (4) 討論の場
- (5) 人間的つながりをもつ場
- (6) 教師からきめられたもので我々には関係ない。

4. 自治会の組織を知っているか？

- (1) 知っている。
- (2) ほんやり知っている。



(イ) 知らない。



やはり年の甲といまじょうか。一年生諸君、もっと生徒手帳をよくよめ!!

5. 代表会議について

④ 代表会議が毎水曜日に行なわれているのを知っているか。

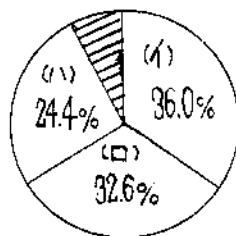
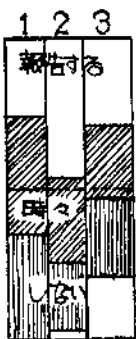
- (イ) 知っている。
- (ロ) 知らない。



②を答えた人の半分以上は(ロ)と答えている。代表会議の在り方をもっと検討しなければならぬが、また、生徒の無関心にもあきれてしまう。自己宣伝をさかんにしよう。

⑥ 代表会議のことを学級代表が報告するか。

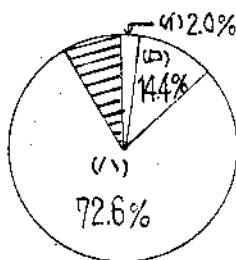
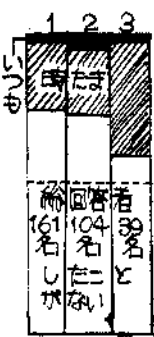
- (イ) 報告する
- (ロ) 時々する
- (ハ) ほとんどない



(イ)のクラスは問題外で代表を送る価値はない。(ロ)は代表会議に出ているければはっきり判断できないと思う。報告する価値がある内容かどうかは、学級代表が判断するのだから。

⑦ 「⑥」で(ロ)と答えた人は、学級代表に質問したことがあるか。

- (イ) よくする
- (ロ) あまりしない
- (ハ) したことがない



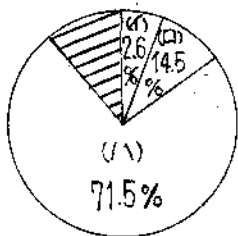
*学級代表の頭よさがあらためて実証された。(イ)を答えた人が多いのは質問する余地がないほど学級代表が繊細にわかりやすく説明するからであらう。(イビツヒ)

④ 代表会議のあり方について御意見を

これに答えて下さった人は多かった。主なものは次の通り

- ① 全く無意味
- ② 話し合いばかりで実現性がない。
- ③ 決定事項をプリントで配れ。
- ④ 議論の内容を公示せよ。
- ⑤ H・Rの意見をもっと取り入れよ。
- ⑥ 学校代表はもっと責任感をもて。
- ⑦ 事前に議題報告をせよ。
- ⑧ 一般会員から遊離している。

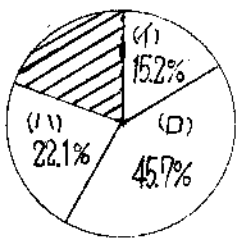
- ①の人は、自分で学級代表に立候補して頂きたい。
- ②空論が多く本部の動作にケチをつけたがる。これは事実です。
- ③学級代表は信頼されているんですよ!



6. 生徒総会について

現状をどう見るか

- イ うまくいっている
- ロ まあまあよい
- ハ 全然だめ



その他 学年集会形式。雰囲気造り。

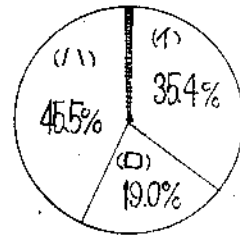
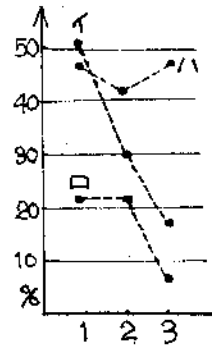
⑤ 会議予定 会議報告などが年中行事となっているが、これを廃して討論の場、決議の場としてはどうかという意見があるがどう思うか。

- (イ) 現状のままでよい
- (ロ) そのようにするには、もっと考慮すべきだ
- (ハ) そのようにすればよい。



○ マで(ロ)と答えた人はそれを改善するのはどのようにすればよいと考えるか。

- (イ) マイクの改善
- (ロ) 並び方を改善
- (ハ) 議事運営の改善



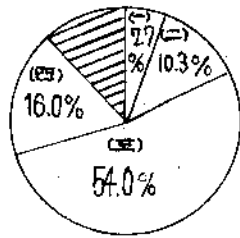
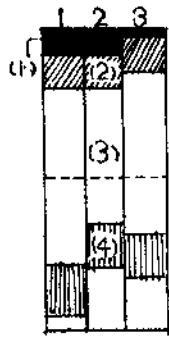
その他

聞く者の態度が悪い。不参加者が多い。会員が無関心。本部の方針なし。体育館が悪い。本部の権力なし。ヤジ多し。さわがしい。事前に学級で討論していない。

○ スピーカー君「僕がこんな大きな音を出しているのに聞こえんとはケシカラン。三年生は少し次元が高いようだけどもね。」

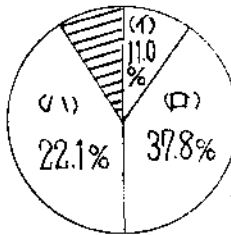
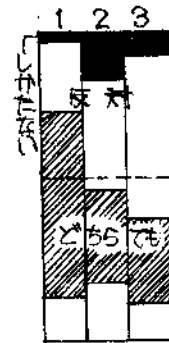
7. あなたは学校行事(自治会祭、文化祭、運動会など)がはつきりと自治会によつて運営されていると思えますか?

- (イ) そう確信する
- (ロ) だいたい思う
- (ハ) あまり思わない
- (ニ) 全く思わない



指導という意味の解釈はいろいろあるが一体我々はどういう意味を思っていたのであろうか。

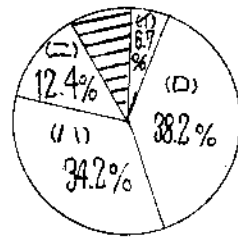
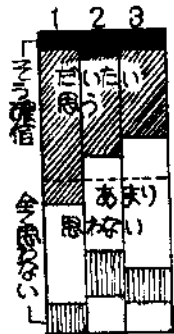
9. 自治会が生徒会という呼び名になつてもかまいませんか。
- (イ) 現状では仕方がない。
 - (ロ) 反対である
 - (ハ) どちらでもよい。
 - (ニ) その他



名は体を表わす?形式は内容を決定すると言われているがさて現実はどう考えますか。

10. 自治会の存否についてあなたはどのように考えますか。

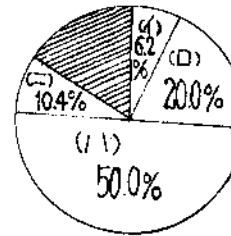
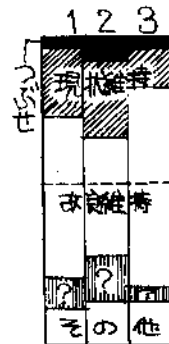
- (イ) 即刻つぶすべきである
- (ロ) 今のまま続けるべきである
- (ハ) 改良するならば続けるべきである
- (ニ) わからない
- (ニ) その他



意見は各学年とも一定していたが、(イ)の意見に今後一定するようみんなが努力すべきであらう。一にも、二にも三にも努力!!

8. 自治会に対する先生方の指導をどう思いますか

- (イ) 当然の事で多少の行き過ぎは許される。
- (ロ) 先生方の義務だから仕方がない
- (ハ) ある程度までなら仕方がない。
- (ニ) ほとんど干渉すべきでない。



大半の意見が(イ)を支持しているが、一歩改良すべきはどちらであらうか。さて改良の方法は如何。

11. 自治会の会則で改正すべき点はあるか。

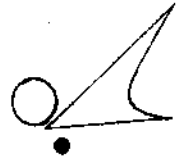
- (イ) 校長の自治会最高決定権を破棄
 - (ロ) 学級代表を二人にする
 - (ハ) 生徒総会の定数改正。
- すべては諸君の意志次第。言いは易し行いは難し。

座談会

自治会の発展のために

出席者

自治会役員
■年5組、生徒
■年学級代表
■年&9組生徒



司会ーこの座談会は、自治会アンケートを参考に行います。最初に自治会役員の名前を知っているかという間に、40%の人が半分、40%の人は知らないという結果が出ていますが、これをどう思いますか。

Aーそういうのは知る必要はないのところがうかな。理解を深めるには必要かもしれないが、知らないからといってどうということはない。

Bー自分の代表を選んだから、名前を知っている必要がある。

Aー投票のときにしか名前を知らさないような自治会だから、必要はない。

Cーその役員の名を知っても、別に変化があるわけではない。ただ知っているのと何かと便利かも知れないが。

Aー人前に入る人は、知るようになるが、書記などは関係ないので、名前など知らない。

司会ー自治会の意義として、高校生活においての自主的活動の場という意見が半分以上ですが。

Dー自治会に対する関心が少ないので、役員の名を知らないという人が多数をしめるという結果がでたのだと思う。

Aー名前を知っているのは自主的活動に通じるというのか。

司会ー通じるのではないでしょう。

Cー自治会に対する関心が薄いの残念というべきだろうか。

Aー残念でも、マンネリ化している名前を知らないのはこの二・三年普通だ。

司会ー学校行事が自治会によって運営されているかと思っている人は、半分以上なのに、名前を知らない人が多いのは無関心ということじゃあないですか。

書記ー名前を知らないというのは、その役職についていて、ただ仕事をしているという機械的組織の一人

として知っているだけだ。名前を知っていることが、自治会役員を人間として、認めているということだ。

Aー投票したときにしか、名前を聞かされないのに、機械的も何も無いのところがうか。

司会ー自治会役員としてもこの場合、無理に立候補させられたような具合ですから、Aさんのいわれることも正しいとはいえないと思います。

Aー次に選挙をするまでの合間を埋め合わせるだけのもの、もう一度、自治会役員の選挙をするものかと思った。

Cー最初ももう一度選挙をするはずだったが、**社研**のビラの問題で忙ま続けたら、学級代表がこのまま高くなったから、しかたなしに、だからと続けてしまった。

*後期自治会の選挙に立候補者が少

なく、学級代表の集りで、立候補者を決定した時のこと

*社会科学研究部が、顧問の先生の認印をもらってのはたピラを、ピラの関係者に無断で、ある先生がはがしたという事件。

司会ー学級代表がクラスに帰って、代表会議のことを報告しないというのが、アンケートで半分以上です。

Fー代表が報告しようと思っても、みんなが関心をもっていないから報告を聞かないので、しだいに報告しなくなるのではないですか。

司会ー一般生徒の無関心が現われているのですが、その理由は何かあると思うのですが。

Cー生徒総会で話が、マイクが悪くて、聞こえにくいことも少しある。

Aー今の状態では、自治会に無関心であっても、行事は行えるから、Cーしかしよりよくはならないでしょうが。

司会ーそうかもしれないね。アンケートでは、半数以上が、自治会によって、行事が運営されていると、思っているのですから。

Gー現在マンネリ化されているから、どうも感じなくなっているのではないですか。

Dー自分一人が、しなくても、自治会がしてくれなという気持ちがあるから、全体として、自治会に関心がなくなる。自治会の役員にならないう限り、自分でしようという気持ちがない。

司会ー文化祭では、職員会議によって、クラスでの参加が許されないし、あの後すぐに中間テストがあったりして、先生から生徒への圧力があるようにも思えます。

Aー文化祭などの行事の圧力というのは、自治会に関心がないというのと無関係と思うが。文化系クラブ中心だし、自治会祭も、仮義行列の用意してそれだけだし、関心

のある状態とはどんなのか。

Eー例えばアンケートの回収率が100%であるとか。

Cークラスの意見が代表会議に反映されるといふことか。

Aーじゃあ、それはどうしたら、反映できるのか。

Cークラスの意見として取り上げられると代表会議に反映できるようになっている。

Aー少数ならば、取り上げられないのではないか。

Cーそりゃそうだ。みんなを説得して意見として、出すべきである。

Aー個人の意見を反映する機関があるとしてもいいのではないか

Cークラスで説得できないようなら学校でも説得できないんだから、そういう個人の意見を反映する機関は必要ない。

司会ー他の人で無関心の理由を考えている人はいませんか。

Hー自治会組織というものが弱すぎ

ば、奉仕の精神が出来るだろうと
思う。

Dー自分だけの自分と知っている人が多いので不活発になる。

司会ー自分のことだけしか考えないから不活発になると君は言っていますかどうでしょうか。

Hー自分の事だけを考えても良いと思う。だから自治会の自分自身に対する効用を知ることが、自分だけのことを考えるという理由になるのだが。すると自分自身のために役員に成りたがる生徒も出てくると思う。

Aー倫社の先生に聞くと、自治というものは自然に生まれてきて、効用なんかに関係ないとおっしゃっておられた。

司会ー今後自治会をよくするためにはどうしたらよいでしょうか。最初に自治会の人に聞いてみます。
Cー今の自治会は余りにもホームルームにおける意志疎通に欠けてい

る。ただ自治会に対する関心のみに成り立っている。だからもっと自治会の権利を強めて、みんなに自治会が必要で無関心は許されないうい義務感をうえつけるべきだ。

Aーそれは、理想にすぎない。
Hーしかし、組織の維持には、ある

程度の権力は必要だ。例えば総会においてもみんな勝手に、関係ないことをしゃべったり、途中で帰ったりすることがある。

司会ーところで、さきほどいった、先生の圧力があるというのは、まわがっていますか。

Hー先生も生徒の身になって考えてくれたらいいんだ。

Aー学校の方針を打ち砕いてまでも生徒の身になって考えることは必要はない。

Hー先生と生徒とは対立的になっていく。
これをなくしてもっと先生は生徒

る。ホームルームにおいてもっと

皆が意見を交わすようにしたい。そのためには、クラスノートやクラス交流などもよいと思う。この前の代表会議でもクラス交流を提案したが実行したクラスは少ないと思う。

Dー各クラスの代表がしっかりしなければならぬと思います。代表会議と各クラスを結びつけるために。

Eー二年の学級代表が前期と後期で交替しないので、無関心なのが集まりやすい。学級代表を二人にするとうい。

Fー具体的なことは分らないけれども関心を深めることが大切だと思

Gーやはり、学級代表がしっかりすることではありませんか。代表が報告をクラスでしてくれないと関心の持ちようがないから。
Bー代表会議の開き方に問題がある

に協力してほしい。今は先生は自治会の行事をつぶそうと思ってるのちがうかな、僕はそう思うが。先生はみんなが大学に入っているから勉強を押しつけているのがその理由だ。

Fー大手前は予備校じゃないから、自治会と勉強とを両方とも考えてほしい。

Hー勉強と自治会とどちらを取るかという勉強をとるのではないだろうか。

Aー勉強と自治会に対する気持ちとは関係ないと思う。ただし役員以外のことだが。

司会ー自治会役員になると、どうしても個人の犠牲が必要になるので、それで自治会の事から遠ざかっていくのではないのでしょうか。

Aー犠牲というのはおかしい。自治会が無ければ、広く物事を見ることができなくて、自分の殻にとじこもってしまう。それに役員なら

と思う。

Hーみんなの意見を反映できるようなホームルームをつくること。総会で意見を発表する人を決める。たとえばクラスの代表が意見を発表した後に討議に入るなど。

Dークラス代表がホームルームを活性化することだと思います。
Cー会長を代表会議で押したのだからみんなも集まってくるだろうと信じていたけれど、でもみんな熱心でなく、代表会議にも来ないし、なぜだろうか。



自治会を考える



会長を努めて

前期自治会会長 好井 寛

高校において自治会というものは本
当に必要でしょうか。考えてみましょ
う。私たちは大手前高校で教育をうけ
る生徒です。その生徒がこの学校のな
かでなにを自治しようというのでしょ
うか。せいぜい自治会祭、コーラス大
会、各種スポーツ大会の運営と文化祭
運動会の運営の半分（アードウして半
分しか運営できないのでしよう）など
です。そして先生と生徒との間、生徒
と生徒の間の事故の調査・処理これぐ
らいでしょう。でもこれはすばらしい
ことではないでしょうか。自分の学校
生活の一部を自由に（責任をもって）
できるということは、たしかにほんの
一部です。でもそれは私たちが教育を
受けるもの、つまり受動的立場にある
以上や行をえないことでしょう。
私たちはこの権利をだいに維持して
いかなければなりません。この権利に

かんするかぎり私たちは全面的に責任
をもたねばなりません。私たちがちよ
つとも責任を放棄し怠けると、すぐ
さまこの権利は奪われてしまうのでし
う。私が私の選んだ自治会本部役員
指導を正当な理由なくして無視するこ
とは自分で自分の首をしめるのと同じ
ことです。

自治会をうまく使う法

自治会を利用しようと思う方は自治会
本部室へどうぞ。親切な役員が相談に
のってくれます。また学級代表の話し
をよく聞いているのもいい方法です。
学級代表は代表会議と私たちのパイプ
です。からいま大手前でおこっているこ
とはだいたいわかります。また意見を
発表すれば代表会議に反映されるのでし
う

自治会をうまくやつていく法

私たちは自治会を運営するために学校
に求めているのは決してありませんか
ら、私たちに与えられた権利を十分有

効に使うのは、大仕事です。これを役
員だけにやらせようなどは夢にだっ
て考えてはいけません。皆が少しずつ
仕事を分担してやらねばなりません。
そしてそうすればこのすばらしい自由
は私たちの手の中にいつまでもいつづ
けるでしょう。

生徒の自由とは

私は生徒です。教育を受ける者です。
ですから私の行動は制限されます。し
たい放題はできません。私たちはした
い放題と自由とのちがいをしっかりと
見きわめねばなりません。いくら過半
数が賛成するからと言って生徒とし
てはならないことはできないのです。
しかしだからといって正しいことを正
しいと言い、悪いことを悪いと言う自
由は私が生徒であろうがなからうが少
しも変わりません。
これが私が任期にあったときに感じた
ことです。

会長を務めて

後期自治会会長 清水正昭

昭和四十二年九月三十日をもって前
期自治会役員の任期終了。しかし十月
になっても後期役員の立候補者がな
かった。ここで大手前史初の自治会休会
という事態を招いた。十月中旬ころ各
クラス会長、副会長による会議が行な
われ、ともかく自治会役員を選出する
ことが決議された。そこで選ばれたの
が我々四人、後期役員をうけもつこと
になった。この休会が我々自治会員全
体に教えたことはあまりにも大きい。

自分の責任を遂行しないということ
がある。このことはみなさんも分って
おられるだろう。
後者の方の改革を主たる目的として
我々四人は代表会議の積極的協力を得
られるという自信のもとに役員になっ
た。さらに学級代表を通してもつとも
自治会員全体がこのことを考え、
自治会の立て直しすなわち我々の考え
るホームルームでの生きた人間として
のつながりを増すということに積極的
に協力してくれるものとも信じきって
いたのである。

この大きな問題、すなわち自治会会員
の無関心という問題は（学校新聞で知
ったことであるが）現在の高校生全般
にわたっていえることらしい。これの
大きな理由の一つには確かに現在の受
験制度もあると思う。しかし私はもっ
と大きな理由をあげてみたい。これは
ホームルームにおけるお互いの意志疎
通を欠くということであり、個人が

しかし現実はどうであった。具体的
にいうとまず第一に、十一月の生徒総
会においてクラス交流を強制的に行な
うということが決議された。このこと
は我々としてもたいへん積極的によい
と思った。それゆえ一月末ではあるが
これをおし進めていった。我々クラスに
おいても放課後クラス交流を行なった
が、本当ならば百人ばかり集まるはず
であるところにならずか五十名程度が残

ただけであった。このことによつて現実をまざまざと見せつけられた感じである。抜け出した数名の者に理由を聞いて見ると「クラブの方が楽しいからクラブにいった。」と答がかえってきた。このようなことではいいのだろうか。生徒総会で決議したことをその決議した本人が、実行しないのである。

第二に代表会議やその他諸会議への出席人数があまりにも少ないことである。先の会長の好井君より「まず代表会議の議員を集める努力をせよ」と教えていただいた。しかしその時は今度の役員は代表会議推薦ゆえはつておいても議員は集まるだろうという安易な考え方をもっていた。しかし現実はどうだろうか。いつも定足数にやっと足るばかりではないか。「約束がわがうじやないか。」とおこりたくなる。

この二つの現実より役員になって自治会員があまりにも無責任、有言不実行であるということを実感した。この

二つの問題を解決することによつて今までのすべての問題が解決され、自治会というものが理想状態に近づくことを信ずる。その反面これの表現は必ずかしいであろう。我々四人はクラス討論、クラス交流をどんどんおし進めるつもりであり後陣にもそれを引き継いでやってもらつてもよいのである。ただみなさんには積極的なそれへの参加を望み、各自の責任遂行を期待するのみである。これが自治会役員を務めた私の感想である。

自治会再建

副会長 浦西友義

自治会とは、一体何であろう。私はそれは必要から生まれる一手段と考える。自治会は、我々の学校において、我々の内における法的機関の最も最大の物であると考え。その成立は決して自然発生的なものではない。それは社会情勢の変化に伴い、外的な原因により発生したものである。従つてそれ

は、学校内の社会においては誠に奇妙な存在になり兼ねないのである。一般社会においては、各人の生命保護と幸福追求のための社会組織は成立し、人間間の契約関係も成立する。しかし学校内においては、到底そんな物は考えられない。従つて、自治会というものは非現実的な物となり得るのである。校内においては、生徒にとつて害なる物や直接生命にかかわるような事は数少ない。従つてその組織は、手段としての効用は、薄れてくるのである。しかし、我々は、この幸福なる環境に甘えてはいけぬ。我々は当然、早晩社会に出なければならぬのである。

それゆえ、この自治会は社会に出る準備期間として重要な意味を持つのである。準備期間であるからそこで扱われる問題は、極めて迫力がないのである。我々は手段としての自治会を再認識すべきである。それは一種の道具である。その道具に対して、本質や意義を求めた所で、結局は何かさっぱりわか

らなくなつてしまふ。我々は、まずそれを必要とする事が肝心である。我々は自治会について考える時あやふやな漠然とした対象や他人の事についてとやかく言う前に自己反省をし、自らの内より自治会の必要性を出してくるべきである。

一体なぜ我々は、自治会に対し無關心なのであろう。組織は、各人にとつて益なるゆえ、形成され維持されていく。しかし現代社会においては、組織が組織を生み、初期の自由契約による自己のための組織とは全く縁遠い存在になってきている。組織に対し個々の人間は、全く無力であると自から自覚し、組織に対して恐れのような感を抱くのである。各人は、組織に無關心に

なることから、能動的自己から逃避し受動的自己になることにより心の平和を得るのである。そこにおける自己は利己的であり、ある面では怠惰であり、精神の情落により娯楽的人間となり得るのである。この状態における自己は

一見自由であるが、それはあるものから拘束されているとも考えられる。我々は、受動的人間から能動的人間に移り変わらなければならない。それによつて真の人間の自由の把握ができるのである。人間は元来、勇氣あるもの、希望あるものである。現在我々は何か見えない物に対して自信喪失を起している。我々は小集団にしか自己奪回の活路を見い出していない。我々もつと大きな集団に対して働きかけるべきである。無力である者は勇氣を持つことができる。我々が自治会に対して無氣力無關心であることは、必然的に國政、地方自治に対して無關心であるということは推測するのに可能であり。

我々はよく自治会には自治の限界があるのてつもらないと言いが、その限界とは我々が自ら造り出した物ではない。かろうか。生徒の善意に基づく自治には限界がない。我々はいくらでもその自治を拡大することができるのである。

我々は元々生来自由である。あらゆる組織が各人にとつて有益なはずである。自由なる人間がその契約によつて造り出した組織は当然自由なはずである。そしてその組織が拘束されるのは、他からの組織との契約によつてのみである。我々がもし、ある契約によつて組織に参加したならば当然契約範囲内で制約を受ける。その制約は絶対的であり個人の我ままは許されない。しかし、その契約は個人にとつては少しも苦痛であるはずがないのである。その契約によつて個人は多大の利益を受けるのだから。現在の我々は個々分裂状態にあるので個々の自由契約による再統一が必要となるのである。

生徒と先生との協議会において妥協するといふ事がよく言われて来たが、我々ほどの程度まで妥協すればよいのであろうか。フランクリンはその自伝の中で、極力議会においても、イギリス本国においてもその対立を避けたと

言っている。反対者に対しては、すべて断定形を使わず疑問形で意見を述べたと云っている。それは人間の片意地やつまらない感情の行き違いによって事がうまく運ぶことが出来なくなるのをつまらなれと思つたからである。彼はある議案を通すためには妥協できる所は出来るだけ妥協した。しかし彼は本質的な事柄については決して妥協しなかった。それどころか向こうに誠意がないのがわかると、彼は出来るかぎりの皮肉や相手の悪態をついた。けれども彼は私生活においてはそのような相手でも仲が悪くはなかった。物事を感情意識の上に立って決める事は危険であり極力避けなければならぬ。本質的な事柄を通すためには多少の妥協は仕方がない。しかし我々は主張すべき時には主張し、ただの妥協だけに終つてはならない。

我々の自治会は一度潰れかけた。潰れかけた物は、もう一度再建しなければならぬ。自治会を自然発生的な物

に期待しようとするのは無理である。なぜなら我々の環境はあまりにも甘すぎる。前に述べたようにそれはあまりにも非現実的で遊び事のようなのである。しかし我々はもう一度考えてみる必要がある。一体誰が非現実的な物にしてるのであるか。

我々は働く人間ではないが、考える人間である。この複雑な社会情勢の中で考える事はますます必要となつてきている。勇気のない人は考える事から逃避するであろう。しかし我々は考える。一人で考えてはいけない。より大量の人の対話が必要である。組織における人間疎外を解消する方法は勇気をもって組織にぶつかるとある。思考の協力によって理想の社会自治会が形成されるのである。その上その事は各人の人間の完成にも役立つはずである。なぜならば、そうすることによつて独断を避け個人における思考の再出発も容易に出来るのである。我々が必要としなければならぬのは話し合い

の場としての自治会でありHRである話し合いと言つても討論のための討論であつてはならない。より建設的な話し合いが必要である。事務的機関としての自治会は確かにつまらない。我々はこの生きた「手段」「道具」として使うことが必要である。

我々の自治会はまだ不完全である。しかし不完全であるがこそ活発になる所以であると思う。



〇〇〇〇 大手前の先輩たち

石橋 春子

の大手前高等女学校（むろん今とちがって女子ばかりの、五年制の女学校ですが）に入学をゆるされ、先生方も折にふれては「天下の大手前の生徒」とはっぱをかけられますし、何だか、めつたな事は出来ないような心の緊張を覚えたものでした。

私たちの高校生活はこれでいいのだろうかーもし、そんな疑問を少しでも持っているならば、ぜひこのページを読んでください。ここには、私たちが知らない先輩の高校生活が綴られています。私たちより何年も長く社会をこ覧になつてゐる方々のお考えやご忠告には、私たちがもっとよく知らなくてはならないこと、さらに、勇気づけてください言葉が見つけ出せるにちがいありません。無気力で、困惑した毎日、決して立派な笑を結ばないものです。たちどまって、これらの言葉をかみしめ、広い世界を見てください。そして、自信とフアイトに満ちた高校生になるうではありませんか。

厳寒の或る日の事、大手前高等女学校自治会からの封書をいたよき、何か原稿を書く様に迎せつかつたのですが、私のようなものに、どう言うわけで？と不思議に思い乍ら：でも何かしらほのぼのとなつかしさがこみあげ、筆をとりました。

考えて見ますと、大手前高等女学校へ通つたのも、つい昨日の事のように思われますのに、私にも子供が出来、孫が出来、完全におばあちゃんと呼ばれる年代になつてしまいました。それもそのはず、卒業してから三十五年の月日がたつたのですから。

私の入学したのが昭和二年、昭和だ、昭和だ、昭和の子供だ：：の歌声が町に氾濫し、夜明けを迎えるような、希望にみちた時代、今から考えても最もよき時代と言ふことが出来るでしょう。その時代に、大阪府は言うに及ばず、近郊のトップクラスを行く、あこがれ

の大半面、規則、きまりは大へんやかましく、服装検査なるものも、ちよくちよくあり、スカートのひだの数、丈に至る迄、気をつかつたものでした。又始業時間、門限時間などもきびしく四時以後は絶体このこれないと言ふ風でした。

勉強も他の学校とちがって、程度も高く、きびしかったようですが、現在の男女共学の高等学校に比べれば、のんびりしたもので、時間的にも、よほどゆとりがあつたのでしょうね、放課後コーラスをしたり、楽器を習つたりスポーツをたのしんだり出来ました。教育もその時代にしては、時代の先端を行つていたのでしょう。

学芸会には辯論大会のようなものも含まれていましたし、夏には富士登山、アルプス登山、冬はスキーにも参加出来るようになっていました。

次々と思いはつきない事ですが、五年間の教育は、学力をつけていたとい

たと言ふ事にはまぢがいないのですが、学力の点では、全く自信を失った今日、勉強以上にもっとも大切なるものを学びとらせていたと思ひます。

それはすべてに充実した、みちたりた五年間で培われた人間性の向上とでも申すものと思ひます。

時代は変わり、このはげしい受験難の時代ともなり、勉強の方も一段ときびしくはげしいものでしょうが、暖い人間性の向上もめざしていただき、又と得

がたい、師弟の愛情、友情をそだてていただきたいと念願いたします。

(昭和七年卒業)



井上節子

この度、私如き者の拙文を、「スプリング」に出していただけるのお手紙をいただき、この上もなく光栄に存じています。

私は、五十七回生です。昭和十九年三月に大手前高女を卒業し、大阪女子医専(現在の関西医大)に入学、昭和二十四年に卒業して、現在は大阪の南で産婦人科を開業しています。

私の大手前時代と言えば、日支事変、大東亜戦争の真最中で、十二月八日の日も朝礼の時、雨天体操場で村山先生より、日本海軍の真珠湾攻撃と、宣戦布告のお話を伺ったのを、はっきりと覚えています。その頃の大手前の特徴は、女学校で只一校、教練のあった事です。荻原と言ひ大佐の教官が配属になり、運動場の渡り廊下には、いつも鉄砲が並んでいました。男子と同様分裂行進があり、その上手な事、整然たる事、今思い出しても気持ちよい位です。

段々戦争が烈しく物資はなくなり食物もなくなり、勉強を犠牲にして御殿山の軍需工場へよく勤勞奉仕に行きました。寝屋川の農園も全部芋畠にして、毎週一回づつ手入れに行きました。そんな風ですから修学旅行もありません。その寝屋川の農園で一週間づつ集団訓練とか言つて合宿させられました。しかし勉強もよく出来たと見えて、女子の上級学校進学率は大阪一でした。

今も私の胸深く残っているのは、村山校長先生が「貴女方は天下の大手前の生徒だから、それに恥ない行動をしなくてはいけない。」とおつしやつた事です。今でも私は「天下の大手前の卒業生である」と言ふ事に誇りを持っています。それだけに、自分の行動に責任があるわけです。私の長男もこの四月から中一に、次男は小学校五年生になります。この間デパートで医専時代の友達に合いましたので、「うちの子供、大手前へ入れようと思ふねん」と申しましたら、友達が「この頃大手前

も一寸評判落ちて来たね、先生に一寸左へ傾いた人があるのと違ふ。」と言ひます。それで私はピンと来ました。この間の羽田事件で、大手前からストリートに京大へ入つて殺された人の事を。それで私は、「あれは大手前が悪いのと違ふ、京大は昔から一寸あんな所あるからね。」と言つておきました。事実私は、大手前が悪くないと確信しています。卒業生が全部そうなるわけでもなし、入試の難関を突破する事が出来るなら、我が子は二人共ぜひぜひ輝やかしい伝統と質実剛健な校風を持つた大手前へ入りたいと思ひます。最後に、母校の益々の御発展と、在校生の皆様も私と同じ様に、誇りを持っていただきたいと言ふ事を希望して、筆を置きます。

(昭和十九年卒業)

松村節子

過ぎた日の出来ごとを思ひかえすことはまことになつかしいことです。過去

が美しくきびしいものであればその思い出も深いものがあります。私が大手前高等女学校に入学したのは第二次大戦も酷い昭和十九年でした。入試と申しまして今日の様な学課試験でなく口頭試問と作文だけで選考され其点ではよき時代でした。然し入学してみますと一時間余りの朝礼では目の玉さえ動かすことも許されず、刈上げの頭の着でも決められた日には全員赤いゴム紐でくみり、又制服が出来ます迄の私服が少しでも派手ですと「ちよつとそれではね」と受持ちの先生より御注意を受けました。戦時中とは言え決められたことにハイハイ言わねばならない校風にも馴れました頃私達は豊中高女(現在の桜塚高校)で疎開を止むなくさせられズツク靴に紺のモンペで栄養失調と三拍子揃つた出立ちで空襲のサイレンに脅えつゝ通学しました。又当時の体育の時間の半分は寝屋川の農園(自動車学校になって居ります)へお

もいやでした。豊中高女は環境と言ひ校舎も女学校らしく大手前にはない雰囲気にも包まれていたのですが、間借りをさせて貰っていると言ふ弾圧感で乙女の心は言い様のない淋しさを毎日の授業を受けました。時には爆撃で帰る電車もなく家(枚方)迄お友達と歩いて田舎道を帰りました。やゝもすれば不安な心になり勝ちな時大きな声で歌をうたつたり空腹になれば食べ物のしり取りをして途中からトラックに乗せて貰つたことは今でも言ひ出すとヒツチハイクですが、其途中お友達の家は既に焼かれ泣き乍らお友達と一緒に彼女の家族を探したことが走馬燈のように浮んでなつかしいです。総べて不足な物ばかりで私達は先輩の使つたテストペーパーの裏を利用してテストを受けました。そんな佻しい女学生の儘敗戦を迎えやと大手前に帰り痛みつけられた校舎で落着かぬ哀れな女学生生活が再び始まりました。戦争を忘れたく「モンペを一日も早く脱ぎ捨てたい」と校長先生に

御願いしたり、あちらこちらの学校で文化祭が行われ私達も音楽会や演劇等物資の乏しいにも拘らず精一杯の学園生活を謳歌いたしました。其内に制度が変り北野との交流による高等学校になり何時の間にか六年間を大手前で過したのです。共学と申しましても私達の学年は女子に較べ男子は僅か十二、

三人でした。現在の方は私達の時と違つて恵まれた面もありますが勉強勉強の毎日で本当に大変な三年間と思ひます。しかし人生でこの高等学校の短い三年間ほどんなにか大切な時であつたかが振りがえつてみて思うのです。昔も恵まれた先生の中で思ひ出も残らない唯勉強だけの砂漠の様な生活を送ることのないよう心掛けて下さい。天より与えられた若いうつわに決して無理をなさらず満たされますことをお祈り致します。(昭和二十五年卒業)

上野 睿 夫

第二次大戦が終つて三年目、学制改

革がおこなわれ修業年限が改められたのと同時に我国で初めて男女共学が実施されることになった。昭和二十三年に大阪では北野中学校が大手前女学校と先生・生徒を交流させることに決まり、両校の生徒は住居地の区分に従つてそれぞれ北野と大手前にわかれ新制高校がスタートしたわけである。

昭和二十三年三月旧制中学の三年を終了した私達は新制北野中学校第一回卒業生となつた。従来はの学制と新しく施行された六・三・三・四制との各々の功罪については一応論外として編集者諸君のご依頼である当時の回想を思いつくまゝに記すことにしよう。

阪急十三駅前の繁華街から出て広々と続く焼跡のむこうに校舎が遠望出来た北野中学から大阪城の堀を目の前にして廻りに官庁が重々しい姿を見せていた大手前女学校に移つた我々はこゝでいろいろ初めての経験を味わつたのである。

女生徒達も同じであつたらうが、勉

強も遊びも男女別やという旧来からの風習の中で育つて来た当時の我々が男女共学という制度をどのような気持ちで迎えたか諸君らにご想像願えるだろうか。設備の面でも中学校から移つて来た我々には女学校のグラウンドはいかにも狭く感じられた。盛んになり始めて来た野球をするにも外野はないに等しく、打つ球がこれも北野に比べれば小さいボールに飛び込んだり中庭にはいつてゲームが中断されたりしたものである。男生徒達が続々と運動部を作り放課後練習する時間になれば各クラブが入り乱れて満足にやれなかつたよう

に思う。昭和二十六年頃には新しいグラウンドが出来たがこの卒業の私達には間に合わなかつたのである。こんな新学制の過渡的な時期にあつた私達と現在の学制の中の諸君達との環境の変化を感じない訳にはいかな

い。例えば現在の制度の上で非常に重要な問題となつてゐる大学進学についていえば、私だけではないと思うのだが

一・二年は勿論三年の中頃までは大学受験などということはそれ程緊急の問題とは考へなかつたために、当時の資格試験的な進学適性検査なるものは時々行われたが模擬試験などもそれ程多く受けた記憶もない。志望校も各人の好きなように選べたのでたとえ入試に失敗しても余り落胆はしなかつたようである。つまり受験そのものに対して準備も充分計画的でなかつたようには考へ方がそれ程つきつめたものではなかつたということに外ならない。

大手前を卒業して十六年になるが、戦後のベビーブームによるいわゆる受験地獄の頂点にある諸君が極端な例では小学校の頃からすでに定められたコースに従つて準備を重ねなければならぬなど見聞きするたびに未だ子供の小さい私にも他人事でないような気がする。現在の学制を持つ諸々の矛盾をどのように解決して行くかは複雑な社会全般の情勢から非常に困難な問題であらうが我々も努力を惜しんではな

らないと考へる。

私達が過した頃とは種々の環境が時々刻々変化して行くことであらうが、幾多の議論はともあれやはり学校における教育の究極の目的は広範な知識を修得し社会に貢献すべき人格を形成することにあり、大学は学問を更に深く探究する場であるということを私自身今一度銘記したいと思う。

(昭和二十六年卒業)



クラス紹介

一年一組

「楽しい」その一語につきるのがわが一年一組である。
 入学当時は、仮面をかぶっていたみんなも今ではもう素顔を暴露している。「この世は楽し」とばかりにあばれまわるやつもいる。「オレは大きくなったらガツポガツポもうけてやる」というやつもいる。もちろん一組には灰色学生は一人もいない。勉強々々に追われながらもみんな24時間を精いっぱい使っているようだ。
 何よりもわが一組がほこる所は数多くの校内大会でのすばらしい成績である。バレーボール大会は六人制では優勝、九人制は惜しくも準優勝、水泳大会は三位、サッカー大会は惜しくもコロンによって決勝戦への出場がはばま

れた。

クラスの団結では、どうしても数人の一人舞台となる傾向があるが、それでもしっかりと会長を中心としてみんなが、自分のクラスの事を思い、一組のクラス員である事にほこりを感じているようだ。

全くわが一組は「笑い」に満ちあふれた組である。

朝、始業前に昼食の弁当をたべてしまふものもいれば、実に功妙に先生のまねをして、みんなを笑わすものもいる。また、はめられた事ではないが、先生の授業を「子守り歌」として太平の眠りをさぼるものもいる。

また、わが一組の欠点は遅刻が非常に多い事である。毎日始業時刻をすぎると教室の前と後の戸がいがしくなる。ねれたそうな顔をして、ハアハアしながら教室にはいつてくるもの、先生はいつもの独特の表情をする。するとみんなは、待っていたかのようにどっと笑い出す。

こんな一組にいるクラス員はみな話をすれば楽しくなるような、しかし、考えるべき時は真剣に考える明るい若さのあふれる純情な、つわものどもばかりである。オンマイ!



一年二組

クラスについてどう思いかという投書を全員から集め、それをまとめた。まず目につく事は、この組を明るくウイットに富んだクラスだと言う人達と内部の分裂などの批判的な意見を寄せた人達と、だいたい2つに分かれていた事だ。どちらも大手前の体臭を持った1年2組の素顔だと思ふ。確かに広田大先生を先頭に個性的ユーモアにあふれた御人が、クラスに笑いをたやさなかつた。コーラス大会では音楽選択のわがクラスの事、堂々入賞。スポーツ競技では謙虚に常に中位に名を留めた。男女交際も露骨だが割合良くい

って、幾多のカンブルが出現、周囲の羨望の的となった。成績もヨーデルホンジャケンドモ批判的な意見を寄せた人達は表面的にはうまくいっている。1年2組の裏面を指摘している。
 二、三あげてみると、受験の影響が大手前雰囲気ともいふべき、無力状態に落として入れている。表面上は適当につきあっているが心からはなじめない。
 一確かに皆安易な話題である音楽、異性の話などで話題を留め、精神的内部まで話し合おうとしない。ただ皆勝手に集って勉強したという感はぬぐえない。各人は他人の意見を聞こうとせずいや聞く機会もなく、ただ自己の盲目的信念に従っている。このように内部のグループ化・各人の個人主義(良悪両面の)的な面も著しかった。しかしこれは大手前どののクラスでも見られるのだらう。大手前外部から見れば異常かもしれないが大手前という環境の中ではこれが正常・普通ということなのだらう。この様な意見を考慮した

上でさらに次の様な意見があった。
 「クラスという団体のあり方の理想としてはほど遠いかもされないが別に今の何かを求める気力もない」「ある面、ある所ではお互いに心が通じ合っているのではないだらうか」大手前という環境の内ではよいクラスだったと思う。

一年四組



我々のクラスは、前代未聞のお上品なクラス(但し授業中のみ)。理由は美男美女のお歴々が揃っていて、互いに見とれているのだとか。このため校内試合では一、二回戦で敗退。体育祭ではわずかにリレーで汚名を挽回したにすぎない。僕達、私達の顔がもうあと一センチずれていたら試合情勢が変わっていたらうにとは競技者の弁。
 ここでこのクラスの現在への歩みを見てみることにしよう。最初、僕は陰

気でガリガリのこんなクラスに来るんじゃないかと思ったと前途は不安で夢も希望もない様に思えたものだ。ところが、我がクラスには、「星の王子様」を筆頭に二、三人ではあるが笑点の連中がいたし、朝には交友のための討論会が開かれて、着々と活気のあるクラスへの脱皮が行なわれていった。それに答えて、一部の者の間で「アングラ文集」が「かっぱ」が、クラスとして落書帳が作成された。それに加えて十二月には先生と共に大いに楽しんだ親睦会が開かれた。そして現在、グループサウンズに凝っている魅力的な女の子や、指で机をこすって火傷した「与ひょうどん」もいる。それなのに、ああそれなのに先生方は活気がないと言う。???

Guestion

だがまだ反省の余地はある。男女の仲(一部除く)があまりうまくいってはいないし(女子の権力が強いから)、先生方が指摘されるように授業中が、静かなことである。最後にこうい

うことを考慮に入れて高校生活をバラ色に過ごして行ってもらいたいと思う。こんな歌もあることだし。

おらはうかれただ

おらはうかれただ

四組よいとこ一度はおいで

男子はハンサム

ねえちゃんはきれいだ

おらはうかれただ

長い階段を

二年への階段を

おらは登っただ



一年五組

中学校を出たのが去年の三月、そして大手前高校の門をくぐったのが四月ついでこの間のことだったのに、もう一年経ってしまった。今、こんな文章を書けといわれて、初めて、この一年間の短かさを感じたような気がする。

一年五組、これが僕のクラス 総員

五十一名、教室は暗く、汚なく、冷暖房の完備された、もっとも、冬冷房、夏暖房ではあるが、その名も高き別館四〇二番、小鳥鳴き、青葉に陽がまぶしく、静かで明るい学園を予想して来た僕にとって、少々ショックであったが、これもまあ、伝統のない学校では味わえない良さだ、とよい方にとり、我慢することにした。

まず我々のクラスの想い出を書こうとすれば、我々のクラスの腰抜けを書かねばならない。我が一年五組は、一年間、校内の大会という大会に全て参加し、ことごとく敗退したのである。あえてここに、恥をさらすこともないのだが、結果を書くと、バレーボール

六人制、九人制ともに一回戦敗退。

コーラス大会、予選にして最下位、仮装行列等外。サッカー、一回戦抽選負け、この通り。これだけ書けば、諸君は「何んと情けないクラスだ」と思うだろう。しかし我々は、これらの大会で、どれ一つとして手を抜いたもの

はなかった。大会ごとに、ハードトレーニングを重ねて試合に向かった。ことに、コーラス大会にあっては、休日まで返上したのである。たしかに結果は、前述の通りであったが、僕達はその大会ごとに、賞状の倍も、三倍も価値あるものを得ていったのである。

我々の結末は、他のどのクラスより素晴らしいものであったに違いない。僕はどこにも悔いを残してこなかった。一年五組のクラスのみならず、四〇二番教室を中心に過ごしたこの一年に、全く心残りはなかった。

短かい、高校生活の三分の一をこんな良いクラスで送れたことは、本当に幸福だったと思っている。

一年六組

それではズバリ誇り高き我がクラスの歴史の一端をひもといってみることにいたしましょう。いちばん最初に驚い



一年七組

たのは皆の底抜けの明るさと度胸のよさ。なにしろ中学時代には人前で話すこと、たとえば自己紹介などしりごみせず、エンジョイする人なんかほとんどと言っていいほどいなかったのに。ところが今では黙っていることの方がはずかしいくらい。だから私なども中学時代には声が小さい、おとなしすぎると言われたのが、がらり一変(?)して声が大きすぎる、オシヤベリだと言われるまでになったのだから、六組の明るさ、気風というものは、殆どの女子が%の男子にまじって話していると男子の方が多いいなんてチョツピリも感じさせないところからもわかる。(マアヒドイ/あたしたちそんなにおしゃべりじゃございませんわよ。ーミス六組)(ソウカナア、ボカアズバリついでると思ふけどなあ。ーA君)(ナニヤッ/)いつもこんな調子なんですから。けれども誤解してはだめ。決して男女の仲が悪いというのではないのだか

ら。これだけは自信をもって発表できます。仲のよさにかけては全校一。最初からわだかまりなく男女どちらにも話しかけることができ、数学などわからないところも気軽に質問できた。ノイヤと言えないのが六組生徒のいいところだから。といってもみんなお互いどこかでお世話になっているのだけど。しかしどういいうわけか自治会選挙にはあまり関心がない。ホームルームや討論会などの時には、皆仲がよすぎて話がつきないせいかどうも雑談に走ってしまふ。といってもあながち悪い意味でもない。ユーモアの中から話し合いを進めて行くと言った方がいいかもしれない。

とにかくやっぱり明るく楽しい我がクラス、いつまでも六組精神を忘れないでいきたいなあ。

入学当初、どのクラスでもみんなカチカチのガリガリで気味の悪いほどシンとしてるのが普通である。ところがこのクラスはちがう。やかましいんだ。とにかくよくしゃべるのだ。初めからこの状態なのであるから現在とは言えば諸君も想像できるだろう。昔から「女は良く話す」とされている。ところがこのクラスは完全に逆である。最近、ストープの回りといえは野郎供ばかり、女の子など入る余地などない。話題も高尚なものばかりである。(秘密、グループサウンズのことなどさ。)

一学期間は、まだ高校生活というものに慣れず解らずで、確かにクラスのまとまりという点では欠けていたようだ。二学期初めもこの調子で、コーラス大会、仮装行列などにも参加しなかった。ところがだ、二学期も後半にな

るとすばらしい結団力があらわれてきた。それはサツカイ大会優勝に例をあげられよう。選手は黄色い声に励まされ(ちよっといい気になって)がんばった。クラス一体となってやった結果だった。又二学期から、おそらくこの

クラスだけであらうと思われる特別なことを始めた。それは毎朝の授業前に一人三分ぐらいで自分の意見を卒直に言うことだった。だから思考力も養えるし、比較的話す機会の少ない男女間の考え方が良くわかり、クラス統一の面からはかなりのプラスになったと思える。

先ほど言ったようにこのクラスは、くだらない話によくする。だがHRの時間はちがう。社会、外交問題などの討議になると、佐藤クンにも聞かせた。い？ような鋭い意見が矢のように飛ぶ。とにかく明るく楽しく、良い子とかわい子がたくさん群がっているクラスなのだ。少し調子に乗りすぎるような面もあるようだが。

担任清水源治 男子三十一名、

女子十九名。



一年八組

大手前の伝統的真面目さを進んで破壊し続ける異端者揃いである。

一年八組、担任、高松政雄先生以下五十名。その教室へはいりたれども我と我目を疑うなかれ。君は正常なのだ。変人というものは正常な環境内においてこそ、その存在価値があるのである。しかし我々クラスにおいてはその価値すらうすれ、僕(?)のような一部真面目な者が変人扱いをうける始末。

遅刻にも負けず、欠点にもめげず、ひたすらクラブと早弁とに精を出し、その道にはなれたものなのだがどうしてか校内運動大会には惨たる結果。いずれも並居る強敵に遅れを取り、一回戦で勝ちを譲る謙虚さ。クラスの総力をあげ、自信を持ってこのコロシア

大会はなんと二位、二位ですゾ。後ろ

から。それでも皆ガツカリした顔も見せぬとは、悟り切った様子。御見事ノ

一学期の放浪生活、続いている教室大移動の影響が尾を引き続け、我々クラスはまとまりのある方とは分類し難い。号令一下行動を共にする様子もなく、第三反抗期にしては少しあどけなきが残り、討論会には議題からなんのためにいもなく脱線、そして沈黙。

この様なクラスではあるが、その個々には男女を問わず魅力に満ち溢れていることを書き加えておこう。大手前に我ありと自負する者、八時四十分を予鈴とする者、そして我等男性のこれまでの女性観念を破る様な淑女連、たのもし限りである。

しかし我等同胞よ、この一年明るい事ばかりあったのではない。その裏にあった苦しさ悲しさをも思い出してくれたまえ。そして静かに考えてくれたまえ。新しい学年のために、新しく自己のために。

そして来たるべき世界に最善を尽くすことを、共に誓おうではないか!



一年九組

入学式のとき、あんなに賢くそりに見えた奴らが、今ではデコの面積を比べ合つて悦に入つた!!、自習時間になると喜々として将棋盤に飛びつき、又白土三平のマンガに鼻をくつつける。

しかし、これは男子のみに見られる現象であつて女子はというと、ある先生に「女の子はねえ、えくぼ作つて、お嫁に行きやいのじゃないかなあ。チヤートかかえていちゃ、魅力ゼロだねえ。」と暖かい御助言を頂くような始末である。かような訳でボクらのクラスは全般に女性優位であつて、これもある先生いわく「オマエラハ、カカア天下ヤナイカ。」

しかし、此れ以外にボクらのクラスの特徴は、というとなんもない、全く平

々凡々、天下太平、典型的な大手前クラス像というべきであらう。何がボクらのクラスを此の様にしたかというところ、

先ず、大手前全般に言える勉強偏重主義が上げられるだろう。特に「モットペンキョウセナアカンヨ」という。

先生の御言葉がボクらをして去勢された豚の如くにしてしまったのではないだろうか。次に上げられる原因は、先に上げたものと幾分相通するところもあるが、現在の社会の安楽さである。又ボクらのクラスの「天国よい所イズム」である。この様にしてボクら「現代っ子奴」は増々「平均化、均一化」の道をたどり、そして大多数の者が然るべき日に資本家奴の搾取を受けるのである。

ボクらのクラスはこのような意味でまとまりはあるが、特徴のない、平均的な、そして、面白味のない、クラスであつたと言える。

二年二組

教室の片隅ではお勉強：：。ストー

ブのまわりでは有意義な雑談：：。全くの特徴のない平凡なクラスであります。でもただ一つの特徴：：。「二組には美人が多い。あつ、これはチガツタ：：。」みんな考えて合意する態度があることです。これはなんて素晴らしい事ではありませんか。宗教や政治(特にベトナム戦争や羽田事件)等における討論会の白熱した雰囲気は忘れられません。この激しさがどこに潜んでいたのかと驚かされました。この「激しさ」はスポーツでも遺憾なく発揮されました。バレー、水泳に優勝その他の大会でも良い成績(中には一回戦で敗れたものもあるが)をおさめました。

これらはたぶん女子の活躍が目立ちました。自治会祭は二位：：。このとき程、一致団結の美しさを感じた時はなかつた。一生懸命作つた：：。ロケ

フトを、カプトを、ヨロイを、そしてカイジユウまで……楽しかったなあ……でも実際のところまさか二位になるなんて思ってもみなかったんですよ。

四月始めのクラス編成直後の不自然さは割合短かったのではないかと思えます。特に担任がやさしかったせいもあるのか、初めから開放的であり、ウイットに富んだシヤレが時折でるといふ具合……。前に述べたが担任これまた抜群の優しい先生（ゴマじゃあないですよ）少し我々はその先生に甘えすぎたようにだ……。遅刻者は多く（これには先生もホトホト手をやいておられた様子）掃除は不活発……これらはあまりいい面ではなかった。三年になって怖い先生が担任になられたら、きっと困るだろうなあ。

いろいろ述べたがこの一年、僕にとっては楽しい一年であった。これがクラス全員の気持であってほしいものだ。三年生になって新しいクラスでこの

二組のシックなカラーを存分に發揮してもらいたい。

二年三組



「クラス紹介誰か書いてくれませんか」代表の聲が教室に消えてしまっしぱらくしても、誰も申し出ない。女性には恐しくこわばった顔で教卓を見つめ、野郎共は教室の両隅で自作トランプや将棋の観戦に夢中だった。こんな風で書き出したらきりのないクラスである。まず、どの顔を見てもマンガになる。デカ、チビ、ノツボ、青ビヨウタン……。マガジンかサンデーの記者がネタ探しに来るのではないかと思っていた。女性はいくもこれだけそろえたものだと思心する程しとやかで美女ぞろい、その上平均身長が他よりもcm短かい。というわけで、我々の一年をふりかえってみよう。四月、どうしてこれだけの生徒がそろ

えられたんだろうか？

六月：自治会祭仮装行列優勝（岡田先生のチャイミングな乙姫様、我男性軍の騒ぐばかりの見事な釜ヶ崎住民の奮闘による）

八月：補習授課者少なく五組と合併。

九月：水泳大会十三位。コーラス大会不参加。

十月：教室が隣の教室と完通。

十一月：壁の色灰色より濃青に変る。

（これは某氏の好意によるものだが先生方には受け入れられず多いに叱言を受ける。）

十二月：我々クラスを入れると学年の平均点が五点下がったそう。

皆、愛すべき人間ばかりのクラスである。しかし、この一年で暖かい心の交流を得ただろうか。数々の事件は一体何の為だったろうか。何か青年らしい思い出が残っただろうか。すべてノイである。

何故、みんな善良なのにクラスがまともならなかったか。それは、学問の列車

と言わしめた程であった。その点では我々のクラスの人はみな楽しくこの一年を過ごせて、よかったと思っに違いない。しかし私はやはりいつも何か物足りなさを感じていた。

何といても、クラスとしてのまとまりがなかったように思われる。

各人に「我々のクラスなんだ」といった意識がなかったのではなからうか。

2年生になってこのクラスへ入って先ず感じたことは、良く言えば真面目な人、悪く言えば気がたくさんいるなあと言うことであった。これは私が不真面目であるからに他ならないのだけれども、それにしても一年生の時のクラスに比べて親しみにくい感じがあった。

むろん、つきあっていくうちにこのクラスのよいところがいろいろわかってきた。我々のクラスにはおもしろい連中が多い。少々、騒々しいのであるが、その連中のおかげでむしろクラスが明るい雰囲気となった。ある先生を

「この組は明るくてよい組です」はやらな

てしかたがないのである。私の感想はひねくれているかもしれないが、これから三年生になれば一層学校生活が、せちがらく異常なものになるだろう。そんな生活を少しでも人間的なものにするためにも、もう一度みんなが考え直してみる必要があるのではなからうか？

二年五組



五組は小さなグループの集りう感じがする。ほにかみ屋さんが多いのかもしれない。おすまじさんが多いのかもしれない。でも今頃は大部仲良くなったみたい。ただ残念なことは、男女の仲は切っても切れないと言いうに、我々クラスではいっこうにその兆え感じられないことである。男子がストーブを陣どるとその中に割り込んでいく勇敢な女性は一人もいないし、ストーブ近くのカワイイちゃん身

険を感じて逃げてくるしまつ。ほんとにやさしい。魔法の杖よ、私をキュービットにしてちょうだいと頼んでも、夢の国から出て来た今となっては効めなし。依然として、ほかない望みが残るのみ。ほんとにどうにかならないかしら。魔女リカさんに相談しても掃除はともかくこれだけは無理なようだしそれはそうと、このクラスの特徴を言つてと言つと、こんな返事が返つて来た。『品行方正。スポーツ万能。学業優秀』—どひゃあつと驚く場面である。出たら目もひどい//事実はこうである。我クラスは遅刻にはじまるといつてもさしつかえない。先生もあきらめ顔の昨今である。ところがテストとなると俄然謙譲の美德を発揮するのでからいやになつちやう。おかげで先生は手間が省け過ぎて悲しがつておられるようでもあるが。それにまた不真面目なのが多すぎて公認というところまでいってしまった。私は初めその不真面目さに腹が立って仕方なかった

が今ではその不真面目さ故に好きである。それは笑いながら真理を言うのと通じる所があると思うからでもある。笑いながら言おうと、くそ真面目な顔して言おうと真理には変りない。それと同じことがこの不真面目な態度にも反映しているのではあるまいか。同じやるならふざけて行こうだ。ただ今もっている心の純真さだけは失なわないで!!これが私のお願い。ちいさなお願ひ。

二年六組



概して我がクラスは、特徴のあるようでないクラスということがよく言われる。しかし私は特徴のないようであるクラスとするのが適当なように思われる。確かに目立った存在、表面的に個人的な人は少い(個人的な顔をした人はままだある)。しかし内に秘めた個性は絶賛に値する。たとえば君、彼

は何を考えているのか分らない。松坂屋の閉店まで教育の森を立ち読みしているかと思えば、文法のない日の昼休みに文法を自習し、マラソンで不真面目にビリから二番目を走っているかと思えば(ビリは筆者であった)。数学のK先生でさえ気のつかなかった所まで言及する。また君、彼は新聞も読まなければ本も読まない。不思議なことにはテレビも見ないのである。そして問題点をとことん追求する。この間の作文の時間などは *Marlene* 「丸善」スベリングが誤っているといふこととことん追求したのである。この他にも樋口一葉の「十三夜」を「ジョウソウのよる」と主張する君など並び上げればきりが無い。私は今まで、クラスの個性ばかり追っていたが、それは我がクラスが個々の個性のためバラバラである、というような意味ではない。私自身まともりのあるクラスだと思ふ。なぜなら、例の自治会がつぶれた時なども、テスト

前にもかかわらずクラスの大半が残って論議したことなどもそれを示すよい例であろうと思ふ。

ともかく二年六組というクラスは、バレーボール大会、水泳大会などで惨敗するかと思えば、体育大会では優勝する。社会の時間など異常なほどの無反応を示すかと思えば、九月のアチーブなどは、三十何番の中に九人も入るこんなえ体の知れぬクラスなのです。我がクラスは。

二年七組



我々のクラスは全般的に古典が不得手。自己紹介の時、そう言った人が非常に多かった。事実今までのテストで古典のクラス平均が、学年平均を上回った事は一度もない。先生も「まあ、三学期も平均を上回る事は考えられないね」と悲しい予言を下された。又世界史の時間、クラスの中が変に沈んで

先生の質問に誰も答えなかった時、先生が大きな声でおこられた。「このクラスは葬式クラスだな。全く受身じゃないか」全くそうだった。このようない一面もあるが、二年の初めの頃はホームルームでも割合よく意見が出た。又クラスノートにも傑作が見られた。新入生諸君にはクラスノートの内容がどんなものかわからないだろうが、決してまじめなものではないから御注意。あまり特徴のないクラスだが、学年で、いや学校でおそらく一番体重の大きい人物と休み時間必ず愉快に音楽をかかせる人物がいる。

二年九組



我クラスを振り返ってみて、特徴を述べると、やはり明朗快活と言う事だろう。もちろん授業時間中の事ではなく、休憩時間だけの話である。近頃はストーブの回りに男子が集まって、エ

ツチな話(?)かどうか知らないが、話の花を咲かせて笑いが絶えない。女子も笑い声が絶えないが男子に比べる。幾分多数の派に分かれている様である。それからもう一つの特徴(かどうか言えないが)は、女子がやはり強いかと言う事である。例えばバレーボール大会は女子第二位、男子は準決勝まで進んだ。水泳大会は確か女子が二三位で男女総合で五位くらいではなかったかと思う。又コーラス大会にしても第七位だったが決勝の出場人員は男子七名だけだった。何にしても学校行事の成績は、女子に負う所が多い。又女子の中に男子の様な豪快(?)な人がいるのに対して男子の中に、ニツクネームを「女」と言われて他の男子からいじめられている情無い人までいる。そしてクラスの会長にも女子がなっている。全くさかさまなのである。今女子が強いという事を書いたが、これがスプリングに掲載された頃に女子の魔手から必死に逃れようとしているであら

う自分を思うだけで寒けがしてくる。男子の諸君には、おわかりである。クラスのまとまりは、割合にあったのではないかと思う。二年生という事でクラブをどうしても、ぬけられなく、クラスの事が疎そかになった男子が多かったが、彼らもできるだけ色々な行事に協力してくれた事は非常に気が良かった。ただ一つ振り返って見て残念な事は、やはり男女相互間のつながりが少なかった様に、感じられた事だけである。この点を除いては、みんな楽しく語り、笑った、良きクラスであった。

大手前高校行事紹介

新入生の皆さん、大手前高校のいろいろな行事を紹介します。

入学試験

御苦労さんでした。今さら何を説明しましょうか！

入学式

校長先生のお話しをあくびこらえて聞いていた！思い出すなあ

校外教授

イカメしい名も要するに遠足である。春はクラス単位、秋は学年単位で好きな所へ行ける。大阪城でも結構。

一学期

自治会紹介

必ず出席して下さい。役員が油汗ながして演説をブチます。

中間考査

悪くとも気にしないこと。

クラブ紹介

二・三年生のヤジに驚かぬよう。

対北野交歓

バレーボールや陸上競技の対抗試合。

自治会役員選挙

中学生時代と変わらないと感じ

我が大手前高校は例年謙讓の美德を発揮している。



自治会祭

フオークダンス。

仮装行列とフオークダンス。"

チャート・と"オリシナル"に反

逆する大手前魂がチヨッピリのぞく

体育大会

狭い運動場を走りまわります。

期末考査

全科目90点以上あればあとの半年は寝て暮せる。

アチーブ

夏休みの勉強の成果を確かめます。

文化祭

二日あって一日目は、学校で展示、二日目は森之宮の厚生会館で舞台行事。なお二階、三階からたびたびジェット機がツイラクするので一階の人はいくれぐれも注意して下さい。

一年水泳訓練

昨年は服部プールへ五回通ったカナヅチをカッパに変える体育教官の魔術に期待。

対夕陽定期戦

ラグビー部とサッカー部だけの対抗試合。

耐寒訓練

男子は大阪城外堀を二周。女子は一周。一周三キロメートルアアンンド。

課外授業

ある先生のことば

「野球部は一回戦で負けなあかん。勝ちよったら補習に来る生徒えらい少のうなる。」―他に説明の必要はない。

コーラス大会

必ず参加して美声を轟かせよう。

卒業式

中学校と同じ。

夏山登山・臨海学会

昨年は富士登山と淡路島。

後期自治会役員選挙

昨年は立候補が少なくて困ったようだ。

野沢スキー

行きはよいよい
帰りはこわい？

クラブ紹介

もし、試験なし、宿題なし、成績つかない！というような授業があれば、どんなにいいだろうか……。
ところがそんな授業があるので、
クラブ活動がそれ。

授業のほうは、一定のわくがあって、大ぜいに同じことを教えるのだから、自分の得意な方面は自由に伸ばせないだろう。

又、試験がある。先生にあてられるそんな授業は、どう見ても楽しくはない。

それに対して、クラブ活動に一定のわくはない。クラブの範囲において自由だ。試験もない。自分のやりたいことをやって長所を伸ばして、そして高校生活を楽しもう。

文化系クラブ

ESS (エッサッサ)

ENGLISH SPEAKING SOCIETY 英会話のクラブです。活動日は火・木・土。部員は二年合わせて四十人ほどで、教材としてテレビやラジオの英語会話、アメリカ語教本、発音の本、さらにテープやレコードなどを使っています。毎年文化祭には劇や展示を行なってきました。去年はどちらもなかなか好評だったようです。ところで我々の特徴は、アルファベットが目にはいると何がかいてあるのかなと考えること。どこにても気にいった表現があれば覚えようとする。外人がそばを通るとひと話しかけてやろうなどと思って緊張した顔つきになることなどです。このような反面、ときどき英会話に関係なくDISCUSSIONに熱中するところ。この歴史的特徴かもしれません。またESSは部員全体の連帯を重んじます。みんなで協力して英会話をマ

スターしているというものです。そしてその英会話を単に学校で学ぶ英語の延長ではなく、もっと興味本位で自分達でやっていくものです。クラブにおいてはだれもが自分を強調して、その上で相互に理解して活動していかねばなりません。英語に興味のある人、あるいは興味をもとうとしている人、まずESSにとび込んで活躍してみるのはどうですか。クラブはこれからやろうとしている人のものです。

映画研究部 (映研)

エー研部 / エー研部 / 映画に関心のある者、全員集合。こころざしを持つなら映画研究部の門をたたきたまえ。特に女子は優遇。高校では少ない「映画研究部」のうちでも、バリバリ実績をあげているのが我が映研部。さて昨年の成果はと……。映研といっても映画を見に行くだけの能の娯楽クラブとはわけが違ふ。とりわけ去年の文化祭では『椿三十郎』

(三船敏郎主演)を上映して超満員。おかげで上映時間には、校内の人影が少なくなったとか？ 同時上映の「映研ニュース」もなかなか好評。「映研ニュース」は8ミリだが、部員はこれをユニークなものにするため苦心している。ここにも君の活躍場所がある。

さて今年目標は「劇映画」をとること。この計画は検討中だが、脚本がまとまれば、さっそく撮影にとりかかるつもりで、君も出演できるかも知れないヨ！ 映研部の撮影班の仕事はこういうものだが、外渉班は映画の割引券をもらってくる。これはもちろん全校生徒にバラまくもので、友達にありがたがられる得な役目だ。

さて、これが映研の主な活動なんだが、いい映画があったら全員で話しあう集まりも催したい。さあ、これで君の心も決ったはず、今すぐ映研部へ。将来性のある映研、単調増加関数の「えいけん部」へ。特に女子優遇ノ

ハエー研よいとこ。一度はおいでエー！ 最後に一言、女子優遇ノ (八木)

弁論部

諸君、入学おめでとう。中学校三年間をそれぞれ有意義に、自分の力を十分に発揮して来た諸君、今、君達は、この大手前高校という新しい世界に輝やかしき第一歩を踏み出そうとしている。諸君の先輩、といっても一二年早く本校に入学できただけのことであるが、その時は今の君達と同じ気持を躍らせたものだった。今ほど、現実が満ち、未来にデッカイ夢を駆せることができる機会は、滅多にないだろう。それが、青春の甘さなのかも知れぬ。

これから三年間、諸君は、大手前生として立派に万事を行くだらう。学習にスポーツに、趣味に、そして恋愛に。しかし、これは学年が上がるにつれて体験することだが、諸君の直面する一番の問題は、自己との戦いである。つまり、醜い現実と妥協せねばならぬ

ことへの嫌悪感と学習成績に満足できぬところからくる劣等感をどのように処理解決するかということである。

弁論部の果たすべき役割りは、このようにな人に、少しでも助けとなるように提示することだ、と確信する。あるいは社会の中で個人の幸福を追求することだ。この目的で、弁論部は主に政治問題を扱う社会研究部や報道を主とする新聞部と異なる。彼らに比較して弁論部は、倫理の軸で問題を考える点で地味な存在かも知れぬ。話のスケールが小さく見えるかも知れぬ。けれども、われらはけっして弁論部の可能性を諦めぬつもりである。

音楽部

OMCにおおてまえ、みゆーじゅく、くらぶ。毎年めざましい発展を続けている、実に躍動的なクラブです。「山に祈る」「旅」「蔵王」と組曲にとりくんで三年。厚生会館における文化祭の公演は、大喝采をうけ、非常に

美術部

感動的なものでした。また、毎日コンクールでは、西日本第四位という実績を持っています。

いえ、歌うことだけではありません。O.M.C.に入っただけです。また、毎日コンクールでは、西日本第四位という実績を持っています。

最後のことば
「O.M.C.よいとこ一度はおいで」
歌はうまいし、ねえちゃんはきれい
だ。

オチマイ

れテーマをもって研究しています。歴史部門ではここ数年米日本建築史についていろいろ専門的部分にわたって研究しています。昨年は「中世日本建築史」と題して、建築史上最も重要な時期といえる鎌倉室町期において在来様式に新様式がいかに入りこんできたか

演劇部

部大歓迎です。高校生活における積極的なクラブ活動参加がきつと、人間形成にプラスになることでしょ。

我が大手前高校に入学された、みなさん！
あなた方は、何のために高校へ進学されたのか？勉強だけをするためにと

いう人（そんなコチコチ頭はいないと思いが）は考え直していただきたい。高校生として、人間性を養い、かつ、楽しみ、友と語り合ひ、それからクラブ活動である。と前置きはこれくらいにして、演劇部の紹介と行こう。

演劇部といっても劇をするばかりが能じゃない。
音楽、文学、の好きな人、また絵の上手な人：：なんでも作れる器用な人・スポーツマン（彼等は機敏だそうだから）

現在部員不足で、新一、二年生の入

し込むのは、勿論美ではない。しかし大手前生は未だこの古き時代の思想に閉じ込められておられる様である。

「無限たる創造」としか言い得ないだろ。その無限たる美を創造するエネルギー（テクニクではない）こそ、創作を意図する者の中核である。いや創造の本体である。この美を創造するエネルギーを美術部は期待しているのである。（重ねて言うが、テクニクではない）一年生の大きなエネルギーで美術を進歩発展させることを期待する。

地歴部（チレキ）

新入生諸君、本館三階に、大阪城があり多宝塔があり、通天閣からアジア大陸まである部屋があるのを知っていますか？そうです地歴部室です。過去十年近くの間先輩達によって作られたものです。勿論模型製作だけが活動ではありません。我が地歴歴史研究部では地理と歴史二部門に分かれそれぞれ

演劇の名のように劇を演じるだけじゃないのが演劇部。
要するに総合芸術！
どんな人でも楽しめる。又創造する喜びを持つことのできるクラブ、演劇部に入ろう。

なお新入生歓迎会公演は4月に（日は未定）行います。
部員一同おおいにハリキッテ、名

選演技をお見せしますから、新入生のみなさん、二年、三年の方も、ご遠慮なく：：。

写真部

カメラを持っていく人はたくさんいますが、現像や焼付までしている人はそうザラにはないでしょう。写した後は写真屋まかせ、というのでは本当の写真のおもしろさを知るには不十分です。現像、焼付、引伸しの作業はコツさえおぼえれば簡単ですし、たいへんおもしろいものです。自分の写したフィルムを現像タンクから出してみたと

き、焼付がすんで現像液の中で像が現れてきた時の心境はなんともいい難いものです。自分で写して焼付けた写真は愛着がわいて、一生を通じてのよい記念になります。

私達の活動は、カメラ一丁あれば部員としての基本的活動ができるので、平素は各自思い思いの活動をしていきます。又、春の自治会祭と北野交歓、秋の体育祭には速報を出したりもします。秋の文化祭は自分のこれまでの成果の発表があります。さああなたもカメラ片手にバッチリ写して下さい。

社会科学部(シヤケン)

現代は、多くの根本的な問題をかかえこんでいる。ぼくたちを取り巻く社会は雑多の渦を巻き、ぼくたちは多様をきわめる現実に対し、不安危機感・虚脱感を感じざるをえない。生きることの初歩的な意味すら忘れさられようとしている。ぼくたちはこの事を見通しては、ぼくたちの中の人間すら主

張できなくなってしまうのではないだろうか。

「ぼくらは、これらの問題を自分自身の問題として取り上げ、そうすることによって得たものを、より一般的な形として、ぼくたちをとり囲む様々なものへ投げかえしていきとうと考える」ところで、このような問題はもろもろの事だが、非常に広範囲にわたっているし、そのもつ意味も多岐にわたっている。また、これらに対応する思想や社会科学上の主義・主張もまたそうである。しかし、ぼくたちは一つの確固たる考え方を持つ必要がある。すくなくとも、それを持つようにすべきである。そして、それを現実の中へ作用させようとする一つの力にまで高める必要がある。

ところが社研の現状は、意見の相違と活動の停滞である。これは社研自身の問題である。しかし一方、ぼくらはぼくらの問題とすることは、広く人間一般に通ずることだと考えている。

ぼくらと問題を同じくする人、ぼくらと話し合いたい人は、クラブ長屋最奥の部室へ来たれ。活動日は、火、木。

理化研究部(リケン)

現代に於ける役割の極めて大きい科学は自然の客観的認識を目的としています。自然科学一般を取り扱う理研部はそれを目的としている事は述べる必要ありません。

自然科学は20世紀になってからたいへん多岐に細分されています。もちろんすべてにわたって研究する事は不可能ですが、少しでも多くの分野で研究するのは我々若い高校生の特権ではないでしょうか。理研をその初段階としての場と考えれば良いと思います。

理研部の正式名称を『理化研究部』と呼ぶように、物理、化学はもろろん地学・天文・気象等さまざまな分野が取り扱われています。昨年の主な成果は、水質分析、ハロゲン、反発係数の測定、プラネタリウム、徹夜の天体観測等で

決してはでな研究ばかりでなく、他からあまり感心を持たれない様な地道な研究もある事も否定できません。

この他理研の特色は、グループ研究が中心なので部員間交流を基礎としている事です。

又自然に親しむのが多い事は、勉強に疲れた我々に元気を与えてくれます。この様に名称から受ける堅い感じは全くなく楽しい、先輩との交わりも多クラブです。我々は、自然科学に少しでも興味を持ち積極的に活動する熱意のある人の入部を望んでいます。高校生活を無意に過ごさない様にクラブに入ろう。

理研に入ろう!



文芸部

皆さんの中で人間とは何か、愛とは何か、何故我々は存在しなければならぬのか、と語り疑問を持っている人は、是非文芸部に入ってください。文芸活動を通じて、書くことにより自分を見つめ、他の人の作品を鑑賞することにより、他人をそして自分自身を理解するのです。自分を知る事が、それら疑問の解決と結びつくのです。結論は出ないかも知れませんが、部内でのディスカッション等により、今まで目を向けてもみなかった新しい視野が開け、解決の糸口になるのです。

今まで、自分は文章を書くのは嫌いだし、書いても下手なものしかできないだらうと、思い込んでいた人、今も思っている人、そんな人達にも文芸部に入って、書く喜び、満足感を味わってほしいのです。そして何故に作品を発表するのか、文学は何をなし得るのか、と文学の本質について、共に

考えて行きましょう。

これらの活動を通じ、高校生活をより有意義に送り、精神的な人間成長、人格形成をやってもらいたいのです。とにかく皆さん、自分を見つめたい人、自分を知らたい人、自分を分るうとする人、その人たちは是非とも入るべきです。

新聞部

新聞部は、何をするクラブかといいますが、新聞を発行するクラブです。

部室は、夏涼しく冬たいへん寒いという夏向き(前向きでも後向きでもない)にできております。場所は、どこかといいますが(いわなくても)校門を入って薄暗い靴箱の所から校舎に入りますと、正面に道場があります。そこで左へ、まがって、階段を昇ると講堂です。しかし右へ、まがると掲示板があります。そこで左を見ますと給品部、その辺から外へ抜けると、食堂が

生物部

ございます。けれどもこの読者は、掲示板のところを右へまがってください。職員室があり、そのまま、まっすぐに行く。と事務室があります。むこうから先生が来られましたら、べこりとおじぎして下さい。つきあたりで立ち止まって、右手に階段があります。そして便所があります。左へ折れて進みます。と化学教室、物理教室があります。つきあたりを右に出ると図書館と保健室があります。まっすぐ出ると体育館が見えます。左へ出ると、中庭です。左手の階段をずーっと最後まで昇ります。と、あらまあ不思議新聞部室に到着でございます。ここからの眺めは最高です。物好きな人も、そうでない人も、一度はおいで。部員は親切やし、おとなしいよ。

新入部員歓迎！
ひやかし歓迎！
まあ、これを読みながら、校内見物のつもりで、おいで下さい。

現代の生物学の発展は、めざましいものである。物理学・化学の進歩により生命現象を分子のレベルで解析するまでになった。しかし、生命現象にはまだまだ多くの疑問が残されている。このように生物学とは、無限の広さを持つ学問である。この生物学に興味を持った連中の集りが我が生物部なのである。生物学という少し大袈裟なようだが、各部員それぞれ何かしら動植物に疑問や興味を持っている。(A君などは蜻蛉に非(異)常な興味を持っており、蜻蛉のこととなると目の色が変るほどだ)だから、当クラブの活動はクラブ全体で一つのテーマを研究するのではなく、各個人でテーマをきめて研究している。そして毎月一回、大阪府近郊への採集会もあり、また夏季合宿での臨海実験(丹後地方)ではここ数年来「ウニの人工単為発生」という大きなテーマに取りくんている。

しかし、生物の研究では数学のようにはっきりした解答が得られない。そこで、いろいろ考え、さらに研究する。そこに生物の研究のおもしろさがあるのだ。生物に興味を持っている諸君、生物部に入部し、共に研究しようではないか。

書道部

顔真卿の書を見よう。王羲之、良寛の書を見よう。何か：感じる。深い。古典なのに決して古くない。筆者の新鮮な情熱、生命力がひしひしと押し寄せてくる。善い書。生命のある書に接する時、私達は我を忘れる。

では、書とはどういうものなのだろうか。書は言うまでもなく、芸術活動です。芸術性を無視してしまえば、もはやそれは、単なる文字であり、書かされたものが真に迫って来るといふ現象は起こらなくなってしまふ。つまり書とは「いのち」を表現する事なので私達には各々、自分しか生きようの

ない「いのち」があつて、この「いのち」を生きたいという意識の自覚が、芸術制作へとつながって行くのだと思います。

書道では特に「文字を書く」という面で形の制約を受けているわけだが、それだからこそ、なおのこと書の奥深くまで入り込みやすく「いのち」を表現しやすいのではないかと思つている。

近年、我が書道部は少数ながら大いに実力を発揮し、本年一月には府下高校展への初出展をするに至つた。しかしいくら発展したクラブであつても、その実力を吸収し、さらに前進して行くべき者がなければならぬ。

本年は、書道部の飛躍の年だと思つている。新一年生の奮気を期待する。

放送部

一年生諸君入学おめでとう。放送部へ入らないか。現在本校の放送部は弱っている。原因はまず部員が少ないという事。やる気のある、意志の強い

人、そうでない人でももちろん結構、女子男子多く入部してほしい。次に部屋が狭いということ。諸君の中には放送部の部屋の前を通つて、その狭いに驚いた人があるかもしれない。しかし諸君、部屋の広さが何ぞや。心の持ち次第でそんな事は問題でなくなる。また十分活動できる。

活動はまず昼休みである。昼休みに音楽を流すのである。確かに昼休みに音楽へ来るのがおっくうかもしれない。しかし部員の数が多ければ多いほど、また音楽以外に放送内容をふやせばふやすほど、楽しくなるのではないか。特に女の子の人、練習すれば上手に話せるようになると思う。そのほかに音楽鑑賞としてレコードコンサートを催しています。放送劇も練習する予定ですが現在の所人数が少ないので、なかなかできません。放送劇をやりたいという人、効果音を録音したいという人、レコードの選択をやりたいという人、録音したテープをつなぎ合せたいという人、

まだまだいろいろあります。諸君、放送部へ入りませんか。詳しい事は部室へ来て下さればお話しします。

通信研究部(ツウケン)

『ハローCQ・CQ・CQ』こちらはJ A B Y I Z 大手前高校アマチュア無線クラブ局、どちらかの局聞こえましたらQSOお願いします。物理室の片隅で通信研究部がなにやら怪しげな言葉を使って電波を飛ばしている。

誰でも一応「面白そうだ」というので集まって来る。『入部しないか?』と言うと『どうも取つき難い』というので離れていく。どうも感電の経験者は語るで怖いらしい。いつもスプリングで『通研に入って世界の友と語らう』なんて書いて誘惑するわけだが、事実はいままでいって沖繩と話しが出来る位。それでも見えない友と話しをする楽しさは確かなものだ。もう一つスプリングに書く事に『入部者には上手な感電

の仕方の教授：「とあるが、これがくせもの現在のクラブ員が二年一人に一年四人という事らしい。それで今年

は感電とはなにかを書く事にした。その上で通信の楽しさを多くの人に味わってもらいたい。もともと感電というのは中学で学んだオームの法則の通りになる。家庭の電圧は百ボルト、人間の抵抗は(テストで計ってみるとわかるが)百キロオーム位。つまり電流が一ミリアンペアとなる。普通の電灯で一アンペアだから人間は微かその千分の一で大騒ぎ、電灯はだまって光っている。こんな頭に来る事はないと思っ

運動系クラブ

男子バスケットボール部

亀井勝一郎さんは「人間が一個の人間として形成されるのは、ただ自分自身の力だけにとずくのではない。必ず自己を形成させてくれるところの外部の原因というものがある。その原因の中で、もっとも直接性をおびるのは、自分の先生とか、友人とか、仲間といった具体的で身近な人間関係であり、そこに成立する邂逅(ムズカシイネ/V)である」と、言っている。

皆さん、これを読んで、クラブ活動に積極的に参加しよう。我がクラブでは入部する以上、ある程度忍耐力が必要である。途中でやめることのないようよく考慮した上、入部されることを期待している。なお、秋には一年生が活躍できる一年生大会があり、例年、新一年生が奮戦している。



陸上競技部

自らの限界をためすスポーツは他のスポーツと違った喜び苦しみをもって

います。陸上競技はまさに限界をためすスポーツそのものなのです。現在の陣容選手十五名マネージャー二名計十七名。練習場所は地面のある所すべてだが、主に運動場と大阪城で。毎日放課後より下校時まで、フルに活動(ただし金曜日は自由練習)しています。昨年度の成績はあまりよくない。個人種目ではかなりいいところまでいく人もあるのだがどうも団体では人員不足です。

ラブに移るにしても基礎ができているからわりあい楽だからです。また練習後の充実感(言葉で表わすことのできないもののトップのひとつ)の最高の気持ちを感じることが出来るからです。もちろん練習はきついものです。でもよい記録をだすことが最終目的ではなく、自分でできうるかぎり努力するフ

アイトを持つことが目的(実際にはこんなこと思っているわけではないが)です。また生涯をささえてくれる何かをも得ることが出来るでしょう。最後に、高校生活を充実するためにはクラブにはいりなさい。三年になつてよりかえってみて、有意義な高校生活だったと言えるように。

硬式野球部

新入生に捧げる歌
"おらは入っちゃっただ

おらは入っちゃっただ
野球部に入っただ。
野球部よいとこ一度はおいで
野球は強いしマネージャーはきれいだ。...

だけど野球部にやこわい監督がおらのことをいつもどなるんだ
"なあおまえ野球部ちゅとこはそんなにあまいものやおまへのんや
もっとまじめにやれ!!
あと省略

硬式テニス部

ご存知、皇室推薦硬式テニス

真赤なアンツーカーコート。真白なボール。バックは真青な空。ボールを追う真剣な眼。テニスは君たちのものだ。

故チルデンが言っているとおりに、テニスでは、神秘的なことは、全然起こらない。テニスは普通の心身の持ち主であれば、少しの苦勞を惜しまないなら、だれでも上達しうる健全で、科学的理論にもとづくスポーツである。

個人スポーツであるが、団体スポーツの気分も味わえる。これは、テニスの特質ではないだろうか。

我がクラブは、身体的、精神的に健全な人の入部を希望する。そうでなければ、テニスはできない。

はじめに行動ありき。これこそ若者の本質だ。迷わずに我がクラブに來たれ。

軟式野球部

高校生活において、クラブ活動に參加して、ある一つの目標、例えば「優勝」という目標に向かって突進することとは、我々の特権であり、軟式野球部の活動で充分満たされたいと思います。

我軟式野球部では、今年の最大目標を「藤井寺球場出場」として、奇数日の打撃、守備、走塁練習、そして他校との遠征、招待による練習試合、公式試合で思う存分実力を発揮できるよりにと考えています。

野球は見ているよりも楽しいものです。しかし、自分でやって見て始めてほんとうの楽しさがわかると思います。是非軟式野球へ！

軟式庭球部

軟式庭球部、略して軟庭と人は呼ぶ。部員は現在31名(男子12名、女子19名)で、女性には事欠かない。さしずめ男性天国といったところである。しかし

女性に実権を握られた感も無きにしも非ず。顧問は稲川先生と鈴木先生、何かにつけお世話になっている。ところ

で、我が軟式庭球部の活動の場は、何と言ってもテニスコートである。主に男子はアンツーカー、女子はグレーのコートを使用するようになっていた。これは別にこう決めたわけではなく、習慣である。活動日は硬式庭球部との取り決めにより、月ごとに偶数日と奇数日に別かれる。休日の活動は去年から具合が悪くなっている。したがって休日の練習は原則としてお休み。しかし時折真田山テニスコートにおいて練習をすることがある。さて最後に最も關心のあると思われる部費の件であるがシンブルな値として、毎月50円頂くことになっている。他に臨時徴収することもあるが極めて希である。ここに付け加えるが、我々はテニスを通じて団体生活を学び、精神を鍛練し、技術の向上を図るのである。したがって、決して生半可な態度でクラブを続けて

もらいたくない。以上である。

サッカー部

サッカーいうたらなんか知ってるか？ うん。このごろテレビでようやうてるやつやろ。せや、あれかっこええと思えへんか？ うん、やってみたいな。ほんならサッカー部にはいれへんか。へえ！。大手前にもサッカー部あるのか？。なんやお前知らんのか。常識ないな。はいってもええけど、しんどいやろ。いいや、そんなにしんどないで。せやけど勉強もせなあかんしなあ。なに言うてんねん。サッカーは勉強のあい間にやるねやないか。それに考えて見るや。勉強いうたら手と頭でやるねやろ。サッカーは足でやるのやから使う場所が違ふやろ。それにヘッドイングいうて頭の体操もたまにやるねん。こんな便利なスポーツはほかにないやろ。それもそうやけど、もしけがでもしたらおあちゃん心配するよってなあ。それはちがう。今の世の中

やったら交通事故やなんか多いから道を歩くのも危険や。サッカーしてたらそんな時すばやく動作できて安全や。はいってもええけど、ほくラジオ作りが好きやからそれもしたいねん。サッカーいうたらそんな甘いもんやおまへんのや。サッカーするのやったら勉強以外のことは、皆忘れなあかんでそれがでけへんのやったら、こっちはお断りや。

水泳部

まず、入学おめでと。わが水泳部は心から諸君達を歓迎する。さて、現在日本の水泳界は低迷状態である。そこで大手前水泳部から現状を打開する人が現われないか、と期待するのである。(ちよっとちよっと。)

そのあんな。横向いてんと、あんなもメキシコへ行けるかもしれないのよ)いや失礼。さて、水泳は自分がかっこいいとわかるスポーツである。自分自身だけがたよりなんだ。そこで根性がみ

がかれる。先輩達を見てくれ。みな素晴らしい人達だ。(誰も言わないから自分で言う。疑うなら直接部員に会いなせ)諸君も水泳部に入って、ねばりをつけてみたら？又美容上にも最適なクラブだ。ぜい肉が取れてスタイルは抜群。均整のとれた容姿は、大手前でも光を放って引く手あまた。(これも先輩を見ればおのずとわかる)それにクラブ員の仲も実によい。和気あいあいとした練習風景は真になごやかそのもの、定評がある。プールは去年できたばかりで、大手前の中では一番まともな代物である。それに練習時に他のクラブと入り混らないので、ゆうゆうと泳げる。夏涼しく冬暖かい(走るか)理想的なクラブなんだ。なにより百聞は一見に如かず。まあ一度練習を見に来てくれたまえ。そらその君、君を待っているんだ。

剣道部

千余年を通じて現代に至るまで日本人の心の内を脈々と流れる剣道精神。それを踏まえて戦後新しく再出発したスポーツとしての剣道。それを育成していくのは、僕達若い力をおいて他にはないのだ。

諸君ノ練習は苦しい。夏のむんむんとする暑さの中で振る竹刀は重たい。汗は目にしみ入る。だが諸君よ、つらい練習を終えて面を取った時のすがすがしさはどうだ。道場を吹きぬける緑の風を胸一杯吸った時の何とも言えないあの気持。何にも言わず、ほてった顔をにこやかに見交す友と友。僕等はそこに青春を感じるのだ。

又、練習を終えた後の道場に立って暗い窓ガラスの向こうに居るもう一人の自分を見つめる時、種々の疑問が僕等を訪れる。人間とは？人生とは？そして自分とは？そんな時僕達は一人、一人、深い物思いに打ち沈むのである。

こうした様々な気持を味わうことができるのは、僕達若者の特権なのだ。

諸君ノ

高校生活は灰色ではないのだ。灰色の生活をおくるか、バラ色の生活とするかは君等自身の心の持ち方、考え方にかかっているのだ。諸君、勇気を出そうノ剣道部へ入ろうノ我々は諸君を待っている。共に道場で竹刀を握る日が来るのを待っている。

柔道部

高校生活はたった三年。そのうち少なくとも一年は大学入試でつぶれる。これは残念ながら本校の現実である。しかし、君等には自由な二年間の高校生活がある。この期間をどう使うか。

もし、君が東大の首席をねらう野心家ならば、高校生活はきっぱり捨てたまえ。また、君が心から有意義な二年間を望むならば、クラブをやりたいまえ。

(有意義な高校生活は学業を重視する。)

柔道部は部員に何も要求しない。個人の自由は守られるが、しかし、そこから何を求めるかは、君等にかかっている。我々の経験から言って、得られるものは大きい。強い意志、友情、健康な精神、体力。しかし自分から進んで飛び込んでこななければ得ることはできない。柔道部員はとくに仲がよいと言われている。先輩達の話ではこの友情は卒業後も続くそうだ。身体と身体でぶっかって得た友情であるから、それは固いものとなるのである。生涯の友や精神力、健康などは高校を卒業してからの君達の将来に欠くべからざるものであり、またすばらしい推進力となることであらう。

まあ、一度道場へ来て見たまえ。練習は実になこやかに、また楽しんでやっている。

男子バレーボール部

現在部員七名。少な過ぎるので是非どんなことがあっても新入生にはいっ

てもらわなければならない。これでも試合はできるが、大事な練習ができない。バレーは面白い。やればやるほど面白い。プールの横のバレーコートと体育館で練習。部費は毎月五十円。安い。毎週十五ずつ節約すれば、すなわち食堂で安い方のラーメンやうどんを買ってしたら楽に払える。顧問は数学担任の小野先生と英語担任の松田先生。共に重要科目だから早く顔を知ってもらい、どしどし質問しに行くこと。

活動日は日曜と金曜以外毎日。何故金曜にやらないかと言うと、ロングホームルームがその日の七時限目であり放課後下校時までの時間が短く、疎な練習ができないから。しかし試合前やたまにロングホームルームがなくなる

ことがあり、その時には練習する。現在バレー人口は年々増加しつつある。日本にも割合早く輸入されたので国民の間に浸透している。パスするだけで面白いから、レシーブやスパイクがうまくなるとなお面白い。今の部員

は極めて個性的、知的人物ばかりである。困ったことがあれば大いに相談相手も引き受けよう。人生是れ即ち旅である。旅は道づれ世は情け、困った時の相談は同じクラブ員が一番よい。とにかくバレーは面白い。大いに運動してからだを丈夫にしたい者、中学校でバレーをやっていた者はもちろんはいつて来給え。すばらしいスパイクを打ってみたいかないか。打ちたいだろう。

女子バレー部

バーストスー「打てノ」「ソレノ」パンと鈍い音がしてアタックが決まる「勝ったノ」思わず込み上げてくる嬉し涙とあの感激。すべてがこの瞬間にかかっているのです。

夏の汗と砂でドロドロになったの練習。冬の厳しいトレーニング。試合前の朝練。ローリングの練習では体中に青い打ち身ができます。でも、これだけでレシーブできなかったボールがとれた時の嬉しさ。練習後の充実感と快い

疲労感私達だけが味えるものです。

現在部員は一年12人、二年4人、マネージャー2人で計18人です。練習日は毎週月火木土の4回(そのうち1回は2回は体育館で)。部費は50円です。定時制との関係から練習時間は五時半まで。他の学校と比べると少ない方です。技術的にもあんまり優れているとは言えませんが、先輩もよく来て下さいますし、何よりも私達には先輩から受け継いだ本場のクラブ、やりがいのあるクラブにして行こうと言う情熱がフアイトがあります。そして何でも話せる仲間がいます。

新一年生の皆さん、別に背が低くても下手でもかまいません。一度練習を見に来て下さい。そして一緒に陣陣を組んで大声で叫ぼうじゃありませんかノ

大先輩 Bestノ

All. Fighter-Fighter

Fightー

ダンス部

新入生の皆さん、入学おめでとぅ！皆さんの多くはダンス部というと全くサエないクラブのように思っているでしょう。踊ることが恥しいと思っている人も多いでしょう。でもそんなイメージはきっぱり捨てて私達のクラブにはいってみませんか。私達はダンスを創作していくのです。創作といってもそんなにむづかしいものではありません。自分の感情を動きで表わすだけなんです。悲しい時、うれしい時：その瞬間だれでもするようなことを私達はダンスとして見、作るのです。「足が高くあがらないから自分はダンスが下手なんだ」そんなことはないんです。自分で曲を選び創作する楽しさ……。一度でもいいから一緒に練習してみませんか。それから男子も大歓迎。恥かしがらずに来て下さい。

「スキー班」

冬を見たまえ張りきっているのは、スキーヤーばかりだ。冬は眠りの季節なのか。冬を克服するのは年中活動的である事だ。回りを見たまえ雪上のスピードを夢みて夏のトレッキングに励む姿があるはずだ。

我が大手前のスキー班は登山部に所属している。夏は山に登り大阪城を走って足腰を鍛える。それが冬の合宿に大いに役立つのだ。

9月に入るとスキー班の本格的トレッキングが始まる。12月の冬休み、信州のゲレンデでスキーをつける時、山男が山に一步を踏み出す時の感を味わう。ゲレンデは人が多く孤独を味わえない。そんな時は山の中で一人シュプールをえがく自分を夢見るのだ。



のさみしいクラブも活気づくでしょう。さあ「どのクラブにしようかな」などと迷わずにダンス部にどうぞ。

登山部

「ワンダーフォーゲル班」

山 僕たちは登る
海 はてしない希望
川 静かなせせらぎ
花 うもれて眠る

僕らのため自然はあるさ

僕らのため自然は呼んでいる

Handbook Voice!とは、ドイツ語で渡り鳥のことだ。活動範囲は広く、月一回近畿の山々を歩き回り、夏、春の合宿には、これまで能登半島・島根半島・紀州で合宿をした。ワンゲルは男だけのクラブではない。女子もどうぞ。

「山岳男子班」

練習はあまりきびしくなく、先輩は後輩にとやかく言わない。
○家においても父ちゃん母ちゃんがう

女子バスケットボール部

まず、祝入学、新入生の皆さん！こちらは大手前女子バスケットボール部。これから、いかに我クラブがすばらしいかを紹介します。(あわよくば入部してもらおうという意図のもとに)

まずうちのクラブには、あまり先輩後輩という堅苦しい雰囲気はない。練習後の更衣室を見てもわかると思う。また、卒業した先輩も、指導に来てくださるし、縦のつながりは強いと言っていると思う。

次にクラブを引退するとき、誰でもああ、本当によかったと思うことを言おう。その間には苦しいこともたくさんある。(もちろん楽しいこともある。しかし、その苦しさもまたよき思い出となって何かをやりとげた、という満足感でいっぱいになる。この気持はクラブをやりとげた者にしか味わえないものだ。勉強、勉強で三年間を過してしまふのもいいだろう。しかしこの満

るさくて面しろくない人。

○しよせん俺は：とさよった人
※根性ある人を求む(女子にもでない)しんのあるメシやジャリメシを食いテントの中でジュラフにもぐりながら、先輩後輩がドラ声はりあげたりする楽しみは一度味わっても悪くはない。何にしても高校時代を有意義にすごしたいものは入ってみろ。

「山岳女子班」

来たれ一年！登山部というゴツツイイメージからは程遠い、優しくしとやかなお姉様達が待っています。月に一回、近郊の山に出向き、夏にはクラブ最大のヤマ、北アルプスへの合宿があります。夕陽に映える峰々を眺める時雲海にたたずむ時、貴方は何を思っただろうか？大自然との対話に貴方は何を見出すだろうか？家族的な暖かさや地道な活動がモットー！

高校生活をより豊かに楽しく送るために新一年生の皆さん、来たれ登山部。

足感を味わえない人を私はかわいそうだと思う。

シュートを決める一瞬、すべての神経はそのことに集中する。

何の雑念もない。この気分を味わいたいと思いませんか？



大手前高校では全般にクラブ活動は不活発なようです。その原因に関して色々論議されておりますが、ここで、今までのクラブで活躍されておられる方々の体験談を通じ、その問題を考えて行きたいと思ひます。

— 編集部 —

万田 久美子

私は十一月二十四日、クラブをやめた。自分でも驚く程あっさりといふ。Sをやめた。健康の都合でどうしてもやめざるを得なかった。やめねばならない事がわかっているのに悪あがきするのはいやだった。きれいにやめたいと思つた。病院から帰って二十三日夜、一人で「退部届け」を書いた。不思議な気持ちだった。何の感慨もなかった。私は冷静にペンを走らせている自分に驚いた。それは一つの大きな事実が目の前につきつけられていたから、できた事かも知れない。その日から私の生活は中心を失つた。

この原稿を頼まれた時、最初私は断つた。なぜなら原稿用紙四枚や五枚に私のクラブが書き尽せる筈もなく、又私は冷静にクラブの事を語る自信がなかったからである。(これは今も同様だ。)

十月九日、この記念すべき日を私は決して忘れはしない。「やっ／＼とうとうやり遂げた」幕が降りた瞬間を思つた。嬉しかった。本当に嬉しかった。五体がすみずみまで、ほのぼのとした満足感に包まれていくのを私は感じた。すぐ部室を思つた。一人で部室に座つてこの喜びをかみしめていた。人間なんてそんなものではないだ

ろいか。この上ない満足を味わつた時たどえそれが多人数でかち得たものであつても、自分一人になつてじつとそれにひたつていたいと思ふ様な。

私達の文化祭への準備は、始めから終り迄つまづき通しだった。台本捜しは既に五月頃から始めてはいた。しかしいちいち辞書を片手に読んでいかなければならぬ為、少しもはかどらなかつた。学校では一年生と共に活動をやり、家に帰るとこの作業を続ける毎日だ。心ははやるけれど気は焦るけれど私達はまだ暗中模索の状態だった。台本の決定はもう迫り来る酷暑の気配が感じられる、六月も末の事だった。こうして漸く七月の半ばにキャストが決まった。この頃からである。何かか狂い始めたのは。まさに狂々としたか言えない。男子は男子だけで遅く迄話し込む事が多くなつた。そして皆気の合った者同志以外理解し合おうとしなかつた。私も例外ではない。話しの通じない歯がゆさ、いらだたしさ、口に

こそ出さなかつたが互いにそんなものを感じ合つていた。それは台本の物足りなさや相まっていよいよひどくなつてきた。あの時の陰鬱なまるで冬の鉛色の空の様なドンヨリと重苦しい雰囲気を出すと、私は今でもぞつとす。こんな日が続くとも自然にみんなの足が部室から遠のいていった。低迷を続けていたある日、私達は悩んだ挙句先輩の一人に相談に行った。先輩！その人々は私にもう人間の幅を感じさせ成人した大人を思わせた。打てば打つ程大きく響いてくれた。はね返つてくれた。「やる気のある者だけでやれ、今からでもきつと立派にできる。自分達だけでやる決心がついたら言いに来い。僕が台本のタイプ位全部打つてやる」受験の為に忙しい日々を送つていく先輩がそう言ってくれた。受験生にとって最も油がのる二学期を迎えようとする時に、ここ迄力強く言ってくれた先輩が一体どこにいるだろうか。しかもその先輩は浪人していたのである。

有難いと思つた。そして同時に甘えすぎではいけないと思つた。結局台本を自分で創作し、皆でそれを演ずる事におさまつたが、私には未だにあの時の先輩の言葉を忘れることができない。文化祭の思い出を語ればもう際限が。ある日曜の練習日、大阪城に出かけて行き、女子の作ってきたお弁当を輪になつて食べた事もあつた。本当に楽しかったひと時。大阪城での練習の帰り道、ライトに照し出されるその姿にしばしば目の前の雑事を忘れた。夜空にくっきりと映えるその幻想的な、神秘的な美しさ。月並みな言葉ではあるが、思ひ出してみると全てが懐かしい。そして何となく切ない。

これは自己満足という代物かも知れない。そして又、こんな生活を送つてきた私は、学生として片輪な人間かも知れない。しかし私はこのまゝ片輪な人間で終わるつもりはない。幸いにして私は聖人君子でも何者でもない、生身の人間である。全くの凡人であり、物欲もあれば食欲もあり、又どうせ勉強するのなら一流の教授陣の下で、と願うものである。従つても希望の大学に入學できなかったら後悔するに違いない。そしてそんな気持ちは楽しいはずのクラブの思い出を暗くするだろう。それだけはしたくない。E・S・Sでの活動を後悔する様な事だけはしたくないと思ふ。義務や責任からではなくやりたいからやれるだけやつた自分自身の為、私は勉強しなければならぬ。素晴らしい経験をしたと思ふ。貴重な一時期を過ごしたと思ふ。いつか私の知らない沢山の先輩達も私と同じ様な気持ちでクラブを見つめる日もあるかもしれない。

文化系クラブ

(順不同)

クラブ名	部員数	練習日	活動場所	部費(円)	顧問
文芸	12	火・木	部室	50	高松・中村
写真	10数	火	部長教室	50	南景雄
美術	21	月水士	美術教室	100	浜口忍翁
地理	7	週3日	本館3階	50	小松素彦
音楽		月水木	クラ長屋	50	下村米太郎
物理	27	火木土	化学教室	50	浜田一郎
生物	28	土	本館3階	70	松下典太
演劇	11	月木土	クラ長屋	100	杉野・福島
書道	14	月・木	書道教室	50	源元芳子
新聞	5	月2日	部室	50	朝田・近藤
放映	11	不定期	部室	30	高塩美智子
放送	5	毎日	部室	50	片山・桑原
社研	13	火・木	部室	50	横山・稲川
ESS	約40	火木土	部室	50	城野
弁論	8	火・木	部室	50	小松昌
通研	7	水・土	理科室	50	

運動系クラブ

(順不同)

クラブ名	部員数	練習日	活動場所	部費(円)	顧問
サッカー	24	月～土	グラウンド	0	八倉・桑原
柔道	25	月火木土	道場	100	中村・浅野
剣道	20	金を除く	剣道場	100	松本次郎
軟式野球	15	奇数日	グラウンド	70	香川定一
硬式野球	16	月～土	グラウンド	300	平正人
軟式庭球	31	1日おき	コート	50	稲川・鈴木
硬式庭球	30	月～土	コート	100	彼谷・広瀬
水泳	22	日金以外	プール	50	山本・井手
女子バスケット	25	月水金土	体育館	50	浅野・山本
男子バレーボール	7	日金以外	体育館	50	小野
ダンス	3	火	グラウンド	0	松田
女子バレーボール	16	月火木土	コート	50	山本・松岡
卓球	28	日金以外	講堂	50	中來田
男子ソフトボール	6	偶数日	グラウンド	100	鈴木・平口
登山	107			50	大谷・井手
					清水・小松
					岡田・佐野

プロフィール

先生紹介

プロフィール つまり側面観、先生を横から見たらどんな顔か？
みなさん、特に新入生諸君、君たちが生活を送らねばならない高校、その先生たちは果してどんな人間なのだろうか、知りたいでしょう。真面目人間か、それとも不真面目：。
それを先生が担任をなされている各クラスの生徒に書いてもらった。
先生と会ったときに思い出して下さい。何かの役に立つかもしれませんから。
担任をなされていない先生も、よい先生ばかりですよ。



松本先生

ぼく達一年一組の担任は、松本次郎先生である。入学当時、一人の老教師がぼく達をいろいろ先導してくださった。その先生がぼく達の担任、それも数学という難しい教科を教えるという驚いた。松本先生には失礼だが、この老教師が、難しい教科である数学を教えることができるのかと思つたものだった。しかし、いざ授業にはいると、松本先生のベテランらしい授業ぶりに感心させられ、第一印象とは完全に違っていた。また、先生は、お孫さんの話をしばしばされるが、そのお孫さんなどの関係から、ぼく達にあまり時代のズレなどを感じさせないのだからと思う。

総括すると、松本先生は数学の先生らしく、きつちりした計画的な授業を行なわれ、また時々、ユーモアもまじえ、生徒をしかる時も愛情を持ってかかる。暖い指導と、理想的な先生であると思えます。



広田先生

広田先生、それは数学の先生であるみんなは、もちろん陰でだがポツコリと呼んでいる。初め見た時は、何かせわしない感じのする人だが、それでいておちついていて、彼の授業はたいへんおもしろい。彼に習う人は幸せという他はない。彼はまじめな顔をして冗談を言う。それがむごいほどおもしろい。彼はあんな顔をしているが生徒の心を実によくみぬいている。そして

(そのようにみえないかもしれないが)ほんとうはやさしさあふれる先生である。また先生は高校時代の話をよくする。聞いたらきつちりおもしろい話だと思ふ。生徒をあまりおこらず、むだ話もよくするのだから、感心することはみんながまじめに静かに授業を聞くことで

ある。それは生徒がもともとおとなしいからかもしれませんが、やはり彼の数学が、みんなを授業に引きこむ力があからだと思ふ。広田恒一、それはぼくら生徒にとって最高の先生なのである。



廣瀬先生

当年とって31才。大阪大学文学部出身。担当教科は国語。(酷語という人もいますけども。)去年の四月末に結婚されたばかりの新婦ホヤホヤ。人より長い間空気を吸い続けてきた先生の多い中では若手の存在。そして縦に伸びることを省略して、そのかわりに横の伸びを少しばかり強調したような先生。それが我ら一年四組の担任、広瀬勝先生です。

広瀬先生の授業はとてもおもしろいと言えます。と言っても勉強の方じや

ありません。それにくつついている雑談の方です。

その雑談の内容ですが、やはり国語の担任だけあって、本に関することが多いですね。それも純文学に関するようなことはあまりありません。時には教科書に関連して、漱石がどうの、鷗外がどうだなんてことを言いますけどよく話に出てくるのは「○○書店から××という本が出てきているけど、その本は、なかなかおもしろかった。それからこの前△△という本を読んだけど、あれはあまりおもしろくないね。」とまあこんな具合です。出版社から、いくらもらっているのじやないかと疑いたくなるくらいです。

最初にちよつと書いたように、広瀬先生は新婚ホヤホヤです。それなのに先生は奥さんのことを話したがりません。この記事を書くために、先生に、二・三のことを尋ねましたが、奥さんのことだけは決して話してくれませんでした。自分一人だけで独占していた

いのでしょいかね。最後に一つだけ。

「広瀬先生とかけて何となく。」

「大手前高校ととく。」

「その心は。」

「外観は悪いが中味は立派。」



平口先生

高校生活での先生の役わりってのは手とり足とり式でないので、表面しかみられないようだ。(少なくとも私は。)

そんなわずか一年間、それも表面だけのみかたであるが、我ら一年五組の担任平口先生のことをすこしだけ書かしてもらいます。

八時三十分すぎ、別館の廊下を、体

はあまり大きい方でなく、めがねをかき、美男子でもなく、にがみぼしい顔でもなく、一見おだやかそうな顔をして、出席簿をかかえ、歩いて来る人がいる。この人が、私達の担任なんです。担当科目は、英語、アダナは「○○○○」かなり有名なのでここではふせときます。

先生は、そのものずばりを言われたい。つまり悪く言えば、まわりくどくって皮肉屋であること。(自称紳士的)でもしかられる時なんか、その方がよくこたえる。

先生は、かんがよすぎる。特に宿題をやってきてる子と、やってきてない子を見分ける方においては。だから、やってきていない時は、立たされ、恥をかくことを覚悟していなければならぬ。

先生は、少々意地が悪い。テストをやると言った日は、なし。「次にしよう。次に進む」といった日には、「そして」

わがクラスの担任は、小松素彦先生である。地歴部の顧問と登山部の顧問を兼ねている。私達の入学時の新聞は「はじめのうち、何をしゃべって



小松素彦先生

てみようか。」とくる。だから我ら、どろなわ組は、しよちゅう低空飛行を強いられるはめになる。でもこんなことがあっても英語の時間はおもしろい。ユーモラスな話が次から次へひきだされ、爆笑のうずとなり、そんなうらにも、「これは、せい語は○○だなあ』ってことが自然にはいってしまふ?」

最後に、お正月に先生宅を訪問した四人の弁によると、平口先生は、親切で、やさしい、気まえのいい担任であるというのである。

るのかわからない:。」と、彼一小松先生への紹介をしていたが、それはどわかりにくくはなかった。ただ少々早口なのと、関東なまりがあるだけである。これは先生の生まれが関東であることを聞いてみれば、さほど不思議でない。

担当教科は、日本史、だから、二年生になると顔を合わせることもあるでしょう。ウワサに聞くところでは、先生の授業では歴史の裏話が多いということである。私達が授業を受けた経験では、時々「雷が落ちる」こともある。

先生方の他人評は「なかなかしゃかり者ですよ」とか「あんたらの担任歌好きやなあ」とかである。

旅行好きで登山家でもあるから、休み中の「スケデュール」は、たいがいぎっしりである。四月には、雪焼けた顔をしていることだろう。愛称は「小松チャン」である。



清水先生

清水先生は物理の教師であり、我ク
ラスのホームルーム担任です。我々
は直接授業と関係がありません。だか
ら先生に気軽に話しかけにくい存在に
あります。しかし、朝一回のホームル
ームには全員に約三分間づつスピーチ
させたりしてその隔たりの回復に努め
ておられました。そして、自分からも
このクラスにとけ込もうとされていま
した。勉強の方には非常に厳しくそし
て親切に指導されていきました。高校の
教師は大体冷酷であるばかりだと思わ
れています。でも清水先生はそんな面
があまりなく、朝のホームルームにも
道徳的指導をして下さいました。でも
清掃など細かいことにも厳しいのはあ
まり好感はもてません。もう少し高校



高松先生

生として扱ってほしかったとも思いま
す。
『えたいの知れない怪物』高松先生
を一言で言い表わすならばこうである。
誰にも心の中を見せず、虚無的であ
り、かつゆったりと大きい感じがする。
また、頭の鋭さ、驚くほどの暗記力、
何でも見ぬかかっているようで、恐しさ
をも感じさせられる。

一見生徒に対して無関心なようだが
生徒ひとりひとりに注意を払っている
ようでもある。クラスにも関心がな
いようで、朝のE・Rには、めったに来
られない。入学式の日など、教室にス
ッとはいつて来られて、配るものを配
ると、何も言わずに行ってしまうわ
れ、何となく面くらってしまった。私
たちをおとな



井手先生

本名イデタカシ。人呼んでイデコン
彼は優しく、決していからず、いつも
静かに笑っている。その穏やかな眼差
し、上品な態度はトリモナオサ彌助
菩薩を思わせる。お世辞と思っちゃい
けないよ。一昨年清水谷から転任の際
は谷校の女の子の涙で送られたとか。
それでいてなかなか頼もしい。〇〇
大会に優勝する度に選手一同に「スカ

として扱っておられるとも思える。
授業は自由な雰囲気ではあるが、鋭
い質問がとぶのでほんやりしてはおら
れない。
クラスの中には、この『えたいの知
れない怪物』をいい怪物と見る目も少
なくはないようである。特に遅刻常習
犯は、大いに感謝しているようである。



岡田先生

私のクラスの担任の先生は岡田とい
う若い感じの先生です。先生の奥さん
は大へんな美人だそうでそれはときど



鈴木先生

鈴木朗夫先生。英語の先生で、私達
はこの一年間クラス担任として、又英
語ではリーダーを教えていた。だいた
いあだ名は通称「プラナリア」別名「ク
マゴロー」とも言う。両方とも FEA

ットさわやかコカ・コーラ」をおごっ
てくれるんだもの。それに何事にも慎
重で、授業中でも生徒が突然笑った
計算まちがいでもしたのかと、黒板を
初めから見なおす程。
趣味はヨットに乗ることで鹿島君や
堀江君に負けじと、地中海(日本の)
横断を計画している(?)
六時限目が終われば一目散に帰宅。
妻を愛し、子を愛し、ついでに生徒も
愛する、よきパパなんだろう。
もうひとこと。実際より少なくとも
五年は若く見えてるらしいから、必要
のある方は、遠慮なく御相談ください

きつれてこられる御息女を見てわか
ります。岡田先生は化学の先生です。
化学の実験教室は毎回えたいのしれな
いガスとへんな薬品に満ちています。
先生はときどき、身の危険もかえりみ
ず薬品の爆発する具合を見せて爆発の
危険を教えてくださいました。私はいつ
もそれを楽しみに使っています。
われらが岡田先生はしたしみやすい感
じの先生で、あせらずいからず、いつ
もにここに笑っていて、生徒の自主性
を認めてくださいます。



松田先生

FROM からの来たものだ。(プラナ
リアがどういう形をした動物であるか、
又、クマゴローを主人公とする漫画映
面がかつてあったことは、おそらく御
存知でしょう。)私は、後者の方がび
ったりしていると思う。なぜなら先生
はクマゴローというイメージの中にあ
るやさしさを持っていていらっしやるから。
英語の時間、その日の朝遅刻してき
た者からあたる。これはちよつと厳し
い。少なくとも英語のある日は、まわ
りの人に迷惑しない為に遅刻すべきで
はない。こういう面では厳しいけれど
英文の丁寧で独特珍妙な訳はよくわか
り、テンポがスローなのでゆったりと
授業を受けることができる。一年間指
導していただいて、いい先生だと思っ
た。

松田有弘、二十x歳。生まれつきの女性恐怖症。我が組の担任開始と同時に重症への道を歩み出す。一見学究風の典型のようだが、現在学習意欲喪失中。何でも、教職における男女同権に不満なそう。お察し致します。

若い血潮を滾らせて、学生時代に憧れた教師の職についてはみたが、何の因果か知らないが、赴任したのが運悪く噴煙天下の大手前、専攻したトルコ語も英語の授業の迫害を身に受け今となつては無念の涙。物静かな性格も、大手前生相手では少々マイナスのきらいあり。『ボトムレス』を口に出して赤面なさるようでは、ちと純真すぎるように思われます。でも、一人我が道を行く心意気でもって、恐しい女御達を屯する四面楚歌の教室で孤軍奮闘なさる姿は小生も感服つかまつります。でも生真面目すぎるのも、もうひとつ、凶太く行きましよう。女性恐怖症の完全治癒もそこからです。フレイフレイ

我らの担任テイーチャーム。



杉野先生

名前からわかるとおり女の先生。どちらかと言えば、女にきびしく男にやさしい。そして遅刻や欠課にとてもきびしい。これはあくまでも、私の想像ですが、きっと先生は今よりもさらにお若いころの、まじめな文学少女だったころのご自身を基準にして私たちをご覧になるから、きびしくなるのでしよう。

先生は「さん」「くん」等の敬称をつける時もつけない時もあるが、つける時は、なんのひっかかりもなくすつと出てくるようなんだけれど、授業中など、たまにつけずに呼ばれるときなどは、なんとなくためらいがちに、しりきれとんぼみたにおっしゃるからちよつとおもしろい。先生は旅行がお好

きだそうです。だから教師になったとか？それはうそ。先生のあだ名はあまりにも有名で知らない人以外は知っているというのですから、いままさらいまでもないでしょう。



石川先生

我々の担任の先生は数学の石川甲、これをイシカワハジメと読めなければ国語だけでなく数学にも欠点をとるだろう。極めて個性的な愉快な人物。あだ名はまだない。ちよつとつけにくいようなタイプだ。我々二年七組一同は先生と先生の授業を慕うあまり、明日数学があると胸をわくつかせ夜も眠れず徹夜で数学を勉強するものとは違つたりだ。又数学を慕うあまり、授業中先生にいくらおこられても先生に消しゴムを投げつけて教室を出ていくよ

うな事は一度もしたことはない。

これからはまじめに書くが実際は授業中先生に振り回されているのが現状。先生の全く意のまま。先生特有の数学用語は初めて聞いた時は、誰でもおかしい感じがする。時々急に大きな声を出して、びっくりするが、何も怒っているのではない。これも個性の表現である。一対一では非常に穏やかで、話もしやすい。いつも生徒の事を考えて授業して下さるからこれぞ教師の模範と言えるのではないか。



南先生

我二年九組の担任は南景雄先生である。自称ハンサム(但し年令不詳)自治会祭の仮装行列では光源氏、在原業平といった者のみ自ら買って出られるこのように大変若い気で頭張っておら

れたが、残念なことにお正月早々入院された。

クラス全員の早く先生の授業を受けたという(?)熱烈な祈り(?)のゆえか、経過は極めて良好で一月末には退院して元気に登校された。その時数学のK先生が「南さん、やさ男がよけいやさ男に、なよたけがよけいなよたけになつて帰つて来たよ」とおっしゃったつ、授業担当は古典と漢文であるが、教卓についたらまず片足をひざのせ片手でその足先を持つ、それからおもむろに講義が始まるが、めったに質問せめて生徒をいじめるようなことはない。だから新入生のみなさん、安心して南先生の授業を受けて下さいね。



端緒

里 中 文 雄

テレビのホーム・ドラマや、いわゆる最近流行の「人生論」などに代表されるような考え方、つまり政治や政治運動から逃避し、社会の矛盾やひいては自分自身の矛盾（疎外の問題等）をも見逃し、ひたすらマイ・ホーム（閉じこもり、家庭と会社と行楽地のみが自己の住む世界の全てであるような考え方、生活態度、そしてそのような生活そのもの、これらは現代の一つの傾向といつてよいと思う。ところで、このような生活態度は経済的にある程度の安定（もちろんそれが見せかけだけのものでもあり、底辺層の犠牲をはらって得たものではあっても）が必要であろう。ところが、このところ日本においても世界においても一九三〇年以來不況しらずといわれた資本主義国の経済に動揺の色がかくせなくなり、政治的な面でも世界的なベトナム反戦の運動や、羽田、佐世保で見られた全学連の運動、由比老人の抗議の焼身自殺、ベ平連が4人の脱走水兵をソ連に亡命させた事、それらを伴った政治的情勢の緊迫などが、これまで無関心であった市民たちにも大きな問題を提出した。「ベトナムをど

り考えているのかびくは、世界を考えているのかそれに対して、どのように自主的に主体的に立ち向かうつもりなのか」この問いかけは、一つの挑戦であらう。もちろん、これらの事件の背後にひそむ根本的な矛盾は、これらの事件がなくても存在するし、それらを把握することは重要だが、とにかくこの一連の事件には、僕自身の感性の領域にまで踏み行ってくる何かがあった。僕だけでなく一般的にそうであったと言えるだろう。皮相的あるいは感情的な受け止め方もあったけれども。

結局世界の危機の様相が、これら一連の事件を一つの橋わたし、媒介として、個人々に定着されたと言いつるのではないだろうか。

しかし、僕達の状況は、僕自身も含めて、何らの対応を示していない。黙っておれないという気持はあるにもかかわらず。そこでこの状態を打開するために、僕達が行動を起こす際の出発点と、僕達の在り方を考えて見たいと思う。出発点は、「現状を否定するか、肯定するか」という問いに答えることから。僕の答えは、「否定する」である。どこから、このような答がでてくるのかと言えは、いちいち理屈をつける以前にである。つまり、感性によって直感的に与えられる。

しかし、この問いそのものは、どこから生ずるのだろうか。これは、理性であらう。感性で与えられるのは、ただ漠然とした気分であって、明確な形をとっては現われない。

明確な形を与えるのは、理性であらう。否定か肯定かという問いの出し方は、何を否定し肯定するかということとを、暗に含んでいる。つまり、感性はバネであり、理性は限である。この事は、現実の問題に対する際に、その問題のもつ歴史的・政治的・経済的・社会的・人道的な意味を考察する必要があるということを示すと思う。ところで否定するのは、周囲にあるものや社会だけではない。自分自身も、現状という言葉に含めねばならない。自分自身のことを見すごしては、どんな言葉も無意味となる。とまれ、自己を省みよ。この言葉を僕自身に對する批判としておこう。「否定する」ということは、つまり、自己をも否定するのである。しかし、この方向へは眼を向けることは、困難である。必ず自己保身的になる。感性は、この方向へは働きにくいのではないだろうか。自分自身については、常に理性的である必要がある。自己を認識することは、人間を人間たらしめているものであるから。

さて世界的な問題については、その時々を考えることとして、ここでは自己を否定することについて考えてみたい。一つは、自己が疎外されている事実を否定することについて。僕は現代において、人間が互いに、あるいは自分自身を、分裂させたまま生きていると思う。まず学校でどうだろうか。互いの意志の疎通はおそらくある

まい。親友同志といえども、怪しいものではないか。雑談が多い。雑談が悪いというのではない。僕もこれを大いに楽しむ者だが、こればかりでは毒にも薬にもならぬ。互いに各々の存在の底にまで達しえない。そのためには、他への遠慮ない批判と、自己表出が必要である。しかし、これは相当に困難である。にもかかわらずこれが必要なのは、そのことによって自分の考えの殻を打ち破ることの他に、その中でしか人間の間接橋がかけれないからである。僕達が互に疎遠であるのは、僕達が公的な、ゲゼルシャフト的な学校の中で、学習するだけの機械的人間となっているからであるが、しかし、僕達はこの状態を私的な面にまで及ぼしてはいけぬ。学校は、他に比べて、まだまだ私的な交わりの残されている。それが無いのが問題である。さらに、交わりの追求こそ、却って、自己の分裂を回復する唯一の道ではないか。けれども、それは決して体制そのものから生ずる自己分裂を肯定するものではない。

ところで、このような意味での自己否定は、当然、その原因たる社会機構を否定することに結びつく。結局、問題はそこまで発展するであらう。かつ、たとえベトナム戦争等の問題を考えても、結局そこに還元されるだろう。ところで、ここに一つの疑問点がある。それは、社会機構が変ったなら、それだけでこの疎外が克服されるかと言えは、そうとは思えない。ソビエトなどを見ても、何か社会を構

成する仕方が、上から下へというようなものに見える。まず社会構成員の交わりが、あるいはそれを追求するところが原理であると思う。

以上、このような駄文を書いた所以は、こう考えるからである。僕の知識も、体験も、非常に乏しく、従って思索もまたそうである。しかしながら人間はその不完全さから脱出できない以上、その中で自分自身の考えなり行為なりを、全体的・体系的なものとする必要がある。そうすることによって始めて、不完全なるものの存在を明確にし、問題点の所在とその性質が明らかになる。加えてその事は、現実の行動の上に、一つの照明を投げかけるであらうと。

明治百年に 際して

今年が明治百年にあたる
そうです。明治維新
と明治百年祭に関する
評論を載せました。

明治維新の現代的意義

高橋 進

今年が明治百年に当る。それで政府は記念行事を行って、明治精神の鼓吹に努める。彼らは言う。「明治時代人の逞しき、愛国心を現代の日本人は忘れている。我々の日本は帝国主義国であったかもしれないが、それはアジアに繁栄をもたらした栄光の帝国主義であった。」とかという言葉を。

今日米共同声明に基いて、エンタープライズが寄港して日本全土が核基地化されようとし、沖縄の無条件完全返還、基地撤廃を要求する国民の声を踏みにじって沖縄の核基地化を企み、ベトナム侵略にますます加担し米國に追随しつつかつての大東亜共栄圏の復活を企んでいる支配者達が、明治維新百年祭を行い、国防教育を小学校から行わせ（支配者権力を守る意味の国防である。）神話を歴史上に復活させ、戦後の歴史教育の発展を真向うから否定しようとする逆コースの動きは、かつての国家主義を再興し、徴兵制を企み、我々を侵略戦争と奴隷状態に押し込む行為に他ならない。

そこで我々が明治維新の真の人民的意義を把握し、それ

を現代に生かすことは非常に重要なことである。未来を築く我々青年層にとって重要なことである。

歴史は決して二・三の英雄が創るのではない。人民が築くものである。その範囲は時代によって異なり、明治維新においてはブルジョアジーも人民の側にあった。

重要な点は同様の鎖国政策を取り、同様に欧米資本主義國の圧力をうけた中国と日本において、日本ではなぜ中国の様に一時的にしろ植民地にならなかったかということである。

一部に外国の圧力が米の南北戦争、欧州のクリミア戦争によって弱かったからであるとの意見もあるが実際はそうではない、そうであれば偶然植民地にならなかっただけである様になる。

つまり、十九世紀までに日本の封建制は極度に発展し、一九世紀からは近代化のきざしがいたるところに現われており、マニファクチュア段階にまで発展していた社会経済的基礎にこそ、日本が独立を維持しえた原因である。もちろん、植民地市場として中国、インドなど意味をもたえなかったこと、またセボイの乱、太平天国の乱により、アジア民族は植民地支配に対しては必ず起ちあがるものであると欧米資本主義國が知り、戦争よりも貿易を日本に対して望んでいたせいでもある。しかし、これらは外部的条件であって、真の原因となるものではない。

話は戻るが、薩長の官軍がなぜにいとまやすく幕府軍を倒せたかということも維新の背景を知るには極めて重要である。実際官軍は量的にはかなり劣っていたが、質的には近代の装備、訓練をした軍隊であったことも一因ではあるが、真の理由は、官軍の行進する先々で百姓一撥が起り、百姓達が武器をとって立ち上り、幕府の役人達を追い払って村を解放したという事実である。現に明治初年後において百姓一撥の件数は非常に増えており、都市においては打ちこわしが頻発していた。この様に民衆にとっては明治維新は「世なおし」的意味をもっていたのであった。

しかし実際明治維新は民衆にとって世なおしとなつたか、否、幕府政権を倒すために民衆と手を組んだ薩長の倒幕派武士は、幕府が倒れるやいなや、反動と化し、民衆がさらに革命を進展させようとするのを押えつけ、民衆の革命エネルギーが彼等自身に向けられるのを防ぐために血生臭い弾圧を加えたのであった。だが人民は彼等の要求に合った世なおしを行い、天皇制絶対主義政府が財政維持の為に執行した地租改正に反対して闘い、数年の闘いの結果地租率を下げさせることができた。

また生活を守る為に徴兵制に反対して数万人の参加する大規模な一撥を行って闘った。かような民衆の革命的エネルギーは、数年後一時衰えたが自由民権運動が起るとそれに積極的に参加し、初期の地主の自由民権運動から民衆の

自由民権運動に変革せしめ、そのエネルギーによって日本はまがりなりにも憲法を制定したのであり、明治の欽定憲法といえどもそれは天皇制絶対政府から与えられたものではなく、民衆が勝ち取ったものである。(支配者とは常に民衆が自分達の力の強さを確信するのを恐れている) もっともこの自由民権運動に参加した人数は現今の大衆運動と比較するとかなり少ないものではあるが。

ごく大ざっぱに明治維新について述べてきたが結局いいたいことは「人間の歴史は階級闘争の歴史である」ということであり、「真理が大衆をつかむ時、歴史は動く」ということである。

ベトナム戦争においてもしかりである。
日本の平和運動、労働運動をみてもしかりである。
人民は必ず勝利するのである。

明治百年祭を考える

山 川 雅 夫

明治への賛美は準備会議広報部会で決定された「明治百年を祝う」の冒頭に「明治は世界史にも類例をみぬ飛躍と高陽の時代である」という形であらわれる。

即ち明治天皇を中心として日本国民が伝統的に持っている国家主義・民族主義を発揮したからこそ、日本はアジアで唯一の独立国家として成長してきた、と主張するのである。

そこでは、アジアにおける唯一の独立国家の誕生が、朝鮮や中国への侵略と国内の民主主義への弾圧の結果であるという反省はみられない。そればかりか、明治から現代までの一貫した成長を主張することによって、第二次大戦を境として日本が大きく質的転化したことを否定しようとする。

何故か。

アメリカのベトナム戦争は経済的に大きな破綻を示している。(朝日ジャーナル一月十四日号)。アメリカにとってアジア自由主義陣営最強の自衛隊のベトナム派兵は願ってもないことである。また政府・自民党には前回の総選挙で得票率が五十パーセントを割ったことや、都知事選での敗北等深刻な危機感が表われている(自民党六十六年度選挙公約十大政策)。そして戦後の民主主義の成長は、ベトナム派兵への大きな抵抗力となり、今後ますます政府・自民党を追いつめていくことは必ずであ

最近明治百年ということがさかんに言われており、諸方で盛大な記念行事が予定されている。政府も十月二十三日を明治百年と決め盛大な政府主催の行事が計画されている。その反面、歴史学研究会、歴史科学協議会、歴史教育者協議会がこの明治百年の動きに反対の声明を出し、日本史研究会も前記三者に協力しようとする姿勢を示していることは、まったくといってよいほど知られていない。この動きを検討していく中で明治百年を考えて行きたいと思う。

「明治百年祭は総ての学校に儀式を持ち、校長の口から全校児童、生徒に対して明治維新が何であったかを語り、その御祝の意味を明らかに説いていただきたい。勿論儀式初めに、国旗に対する敬礼、君が代斉唱を行うべきは当然である。」これは明治百年記念準備会議委員、久留島秀三郎氏(ボーイスカウト連盟理事長)の提案である。久留島氏の発言に典型的に見られるように、明治百年の動きの根底には国家意識・民族意識の発揚が強力に流れていると思われる。そしてその国家意識、民族意識は無条件の明治賛美論と明治天皇への絶対的な敬愛につながっているのである。たとえば、準備委員のただ一人の日本史学者坂本太郎氏(東大教授)も「明治天皇の偉業を顕彰し、明治時代先人の苦勞の跡を国民に周知させることは、きわめて意義のあることと信じます。」と述べている。

社会科の学習指導要綱四十七年度版には戦争放棄の条項があったが、同五十八年度版には戦争放棄の条項がなくなっていることなどを考え合わせるならば、明治以後一貫した発展を主張することによって、対外侵略を隠べいし、戦後根強く培われた反戦思想を弱め、戦争肯定思想の育成をめざしているといえるのではないか。さらにはこのような世論操作を通して、六十年のような大きな抵抗なく七十年の安保改定期を切りぬけ、長期にわたる保守政権の安定化をめざしているのではないだろうか。

このように考えるならば、明治百年は単なる国民的な祭ではなく、すぐれて政治の問題であり、しかも二十一世紀の方向を決定する政治問題であると思う。

注、久留島・坂本両氏の発言は、内閣総理大臣官房「明治百年記念準備会議委員の明治百年記念行事に関する提案」第一集・第二集・第三集からの抜粋。



詩について

西村 純

文芸部の詩集「きりぶみ」。「泥棒猫」その他の読後感の様なものを書いてみる。「泥棒猫」に「心象」と題して、ヘンテコな曲線や、○や△や□やらをでならめに書いて、その中に「18分間一死」だとか、「寒いという冷たさ」だとか、「チヨコレート」だとか、サツパリ訳の解らない事が書いてあるページがあった。僕は、はっきり言ってそれを見てこっけいだと思った。それはその作者にとっては意味のあるものであろうそれらの○や□は他人には何の感動も与えないし、何もおもしろみがないということ。それをわざわざ印刷して作者の名前まで書いてあるのを僕はこっけいだと思ったのだ。詩に於て「抽象化」、「省略」はその真髓なのかもしれないが、あんなのは明らかでたらめである。(他人から見ればの話。)

僕は詩について何の専門的な勉強もした覚えは無いが此頃やっとな自分の感激とか怒りとかが「自分の中でうにもならなくなった時に、それを詩にする事を覚えたそれで「感激」(怒り)を表現するのが詩の本質であ

り、詩は決してそれ以上のものにはなり得ないはずだ。という事だけは疑わない。詩人の胸の内でもやもやしている何かがギリギリの所まで来て、たまらなくなって形をとったもののみが本物だということが出来る。思うに詩は造るものではなくて、吐き出すものである。

この「心象」もそうして生まれたには相違なからうが、読者に何の感動も与えない表現法なのだから、作品としては○だ。従ってあれを印刷して大ぜいの人に見せたことはやはりこっけいとみてもさしつかえない。意味がないんだもの。それから、文芸部の詩集は全体に渡って観念的で新鮮味に乏しい様に感じた。僕らはまだ若いのだ、それだから「苦痛」は存在するのだけれども、その苦痛も若い心は「美しいもの」として捕えても良いのではないか。あま、りにも苦痛を苦痛と決めつけて、きつくえぐったものが多い様だ。思うに、「娼婦」だとか、「お前の激しい吐息」だとか、そんなものがさっき書いた「たまらなくなって形をとったもの」だとは思えない。それでそういう様な作品を見ると、読者はどうしても理解することができずに「奇をてらっているな。」などという事で終わってしまうのではないか。(「きりぶみ」より)

例えばこの詩

情欲に溺れて

青草に女を寝かせた私の腕

おまえの手は

蛇の様に私にからみつ

おまえの激しい吐息は

僕はこの詩から全く何の感激も得る事ができない。

ただ露骨に書かれているその場面が思い浮かぶばかりだ。作った本人は「どうだい。ズバリ赤裸々な表現だろう」と言うのかも知れない。確かにそう、でもそれだけの事だ。(許して下さい僕のかつてな主観で書きます。)

平凡な現実立脚した詩は果たして平凡なものに終るだらうか? 考え抜かれた素晴らしい比喩の見あたらない詩は無価値なものなのだらうか? 否だ。

作者の詩情が本物でさえあれば、その詩は平凡でいて、すでに平凡の域を出ているはずだ。読者に何かが伝わるはずだ。

「詩は他人を感激させる為のものじゃないよ。」

そう言われるかも知れないけれど、他人を動かす事のできない詩は往々にして、造り物である事が多い。

以上書きたい事を書いてペンを置く。





五月の朝の詩

西村 純

あゝ、おまえと私と
目が合った朝から、
もうまわりの生物が私には
すっかり見えないでいるというのに
私が全てを忘れきって
おまえの詩を書いて
おまえに聞かせるのは
いけない事か？

あゝ薔薇

純白の詩句よ

まわりを見たのか？

この五月の朝に

一つも動くものは無くなって

ひんやりとした空気と

垣根の上のおまえと

見つめている私とだけ。

文
井
雲

繁華街のモナリザ

磨^ハ化^カ証^シ 磊^{ライ}

水が一面にまかれ
寒さの為に凍りついているアスファルト道
倦怠と
あまりの無力感に耐えられず
この道に出てきた
冷たい風が
頬を苛み
耳を痛めつけ
背筋にラムネを流し込む
いつものごとく
足は重たく動き出し
感覚の求めるままに
体は移動しはじめる
狭い、狭い道を
何度も、何度も
けたたましくクラクションを鳴らしながら
不敵な車供が通り抜けていく

それを避けながら

着実に不自由な足は進む

目ばかりギラギラさせながら

腹立たしい雑踏の中に粉れこんでいく

「いらっしやいませ。」の声

あまりの心の醜さに

顔はずっと背けっぱなし

「こんちわ。」「さいなら。」

嘔吐の出かかるのを抑えながら

直も直も二本の棒は前進する

目が停まる

顔全体が一箇所に固定する

そのアンバランスに

体は道に突っ伏し

二度と立ちあがれず

二度と立ちあがれず

冷やかな目で去っていく

動物園の猿でも見るように

好奇心の目はいつまでも注がれる

「四つ足よ去れ！ 去れ！

去れ！

尻尾を引き千切るぞ」

助け起こしてくれたのは一人の女

あまりの光々しさに

唇がわなわな震え……

「菩薩、菩薩、ああ」

しかし、女の背中には

ピンク色に光る二枚の羽があった

「私はモナリザ、神のお使いです。」

瞬間、空間がうねり

貧血を起こした女のように

ごみの上に倒れこんだ

「モナリザなんて消えちまえ」

菩薩以外に用はねえんだ

神の使いだと。さんさん裏切っておきなが

ら。神がなんでえ」

ああ、モナリザは歩み去れり

『モナリザは歩み去れり』

コーヒー茶碗を叩き割ったばかりは

涙を流して彼女を見送った

毒女が二人

グラスにビールを注ぐ

泡にモナリザが映る
笑っている、永遠の笑いが

頭をかかえこんだばかりの腕に

二匹の蛇がからみつく

「ちえっこれが知恵というものかい。」

ニーチエを踏みつけながら

地底の笑いをするほく

女のようにメソメソ泣く目

居たたまれないように

沸きあがる血液

光と音楽の狂乱の中で

全てを奪われてしまった男は

今の感覚を知ることができず

燃えつきた心の炎を

呼びますこともできず

人間を愛することも、哀れむことも

信ずることもできず

墓地にとびかう魂のように

何となく何となく

絶対者のみを求めつつける

「空白的な生活……」

まるで虫けらのように
醜めたらしい……」

夢なき世界にて

塵+ 化+ 証+ 磊+

去年と同じように

枯葉は街路に満ち溢れ

冷たい外気を運んでくる風が

小刻みに

養虫の殻を震わせる

青みがかった雲が流れ

空ろな光が

崩れかかった頬を照らす

そうしている間にも

一秒一秒が去って行き

将来を思うことさえ嫌になってくる

……明日はきつとやってくる

全くの未知に包まれ

人々に夢と希望をもたらす

だけどここの世界に

冷たく背を向けた世界に於て

明日はない

未来はない

はらっておけばフィルムが回転して

情景を色々変えるだけ

それは決して明日じゃない

屠殺場に送られる豚の道を

人は歩きつつける

まっくらな汽車の中におしこめられ

自分の殺される順番が

永久に回ってこないことを望い

時間が少しでも延ばされることを願う

人間は豚の足を縛り

神は人間の足を縛る

人間は豚の咽喉を突き刺し

神は人間の咽喉を扶

人間は豚の肉を食い尽くし

神は人間の肉を食い尽くす

阿久惠介

何かに押し潰されそうだ

単調な自然のリズム

重厚な疑惑の絨毯……

何かわからない不可思議なものが

空間にコールドタールを巻いて

否、サンショウウオの皮膚のようなものが

ドサツと、ドサツと、何かが……

地球が自転する音と共鳴して

ズムズムズムズム

ちがう！

何かが私にかぶさってくるのだ

私の肉体を強く揉みながら

それが私に性的快楽を与え

興奮させ、狂わせ

NON

酒の沼で溺れ死ぬような

酔いの中の悦楽と

欠乏した生の救世主が

踊りながらヌルヌルした中を下降する

しかし救世主は私を殺さない

ナメクジが私の顔を歩きまわる

へびが私の体に巻きつく

上からは蜂蜜の雨

下からはミミズの散歩

しかし救世主は私を殺さない！

そして又、圧迫、圧迫、圧迫、圧迫

ダメダ、シネナイ！

舍利子 是諸法空相 不生不滅 不垢不淨

不増不減 是故空中無色……

透きとおったガラスの中

私は一つの標本

蕩けた倦怠のままに

ほんやりと立って

何かを吐く

……行深般若波羅密多時 照見五蘊皆空……

ああ、

まだ私は生きている

編集を終えて

このスプリングは失敗だ。今更どういっても仕様がないが。

我々の怠慢で、一週間でまとめ上げねばならなくなった。もっと自治会の問題も追求したかったが、時間が足らなかつた。質が低下してはいないかと本当に心配だ。大手前生全員のものだということを忘れていた。編集の際しばしば考えたことが、編集の姿勢ということである。我々編集委員は大手前というものを客観的に見下して、それを紙面に表わせばいいのか、それとも主観に走る方がいいのか。自治会の危機のことにしても、我々はただ事実をそのまま書くだけか、逆に我々がみんなを指導するような立場で書けばいいのか。我々としては、十分に論議もかわさなかつたので、後者をとりたかつたのだが自然に前者になつてしまつた。今後編集の時には早くから計画立てて十分に論議を闘わせて編集してほしい。